

CSRレポート2013

Corporate Social Responsibility Report 2013

わたしたちが目指すもの

わたしたちは、
進取の精神と誠実な企業活動により社会の発展に貢献し、
人々の信頼を得たいと願います。



近畿日本鉄道株式会社

会社概要 (2013年3月現在)

■会　社　名

近畿日本鉄道株式会社 (英文名　Kintetsu Corporation)

■設立年月日　1944年6月1日 (前身の奈良軌道株式会社は、1910年9月16日設立)

■本社所在地　大阪市天王寺区上本町6丁目1番55号

■主要な事業内容

(1) 鉄軌道事業

(鉄道事業法および軌道法による運輸業)

(2) 付帯事業

・不動産業 (土地建物の売買および賃貸)

・流通業 (駅構内物販店舗、食堂等の経営)

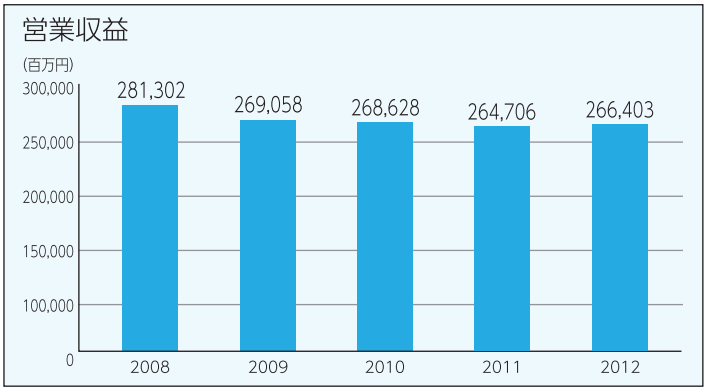
・ホテル業 (ホテルの経営)

・その他事業

(葛城索道線、生駒山自動車道、旅館、文化施設等の経営、光ファイバケーブルの賃貸)

■資本金	92,741百万円	
■従業員数	8,218名	
■事業年度	4月1日から3月31日まで	
■単体売上高	2012年度	266,403百万円
■連結売上高	2012年度	932,156百万円

営業収益推移 (単体)



鉄軌道事業



観光特急「しまかぜ」

不動産事業



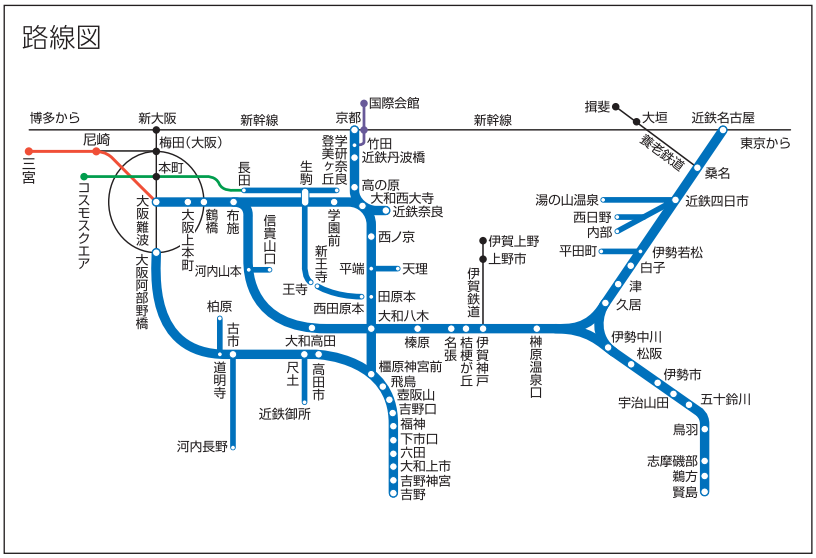
上本町 YUFURA

流通事業



Time's Place うじやまだ

路線図



ホテル事業



ホテル近鉄京都駅

沿線地域と共に、持続的成長を目指します。



当社は、沿線の皆様と手を携え、地域の活性化を通じて、未来を拓くための戦略を実行し、企業としての成長を目指してまいりました。

その最大のシンボルが、日本一の超高層複合ビル「あべのハルカス」です。ただ、私どもは闇雲に日本一大きな事業をしたい、というようなことではなく、ハルカスが地域の皆様から愛され、自慢の種になることができれば、それこそが地域の繁栄に貢献する鉄道会社の使命の達成に他ならないと考えております。

同様に、当社沿線の他のエリアにおいても、様々な地域貢献の施策を進めております。

まず住宅地においては、将来にわたって安心・安全・快適に住み続けて頂ける街づくりに力を注いでいます。ソフト面の施策として、「生活全般の困りごとの解決に役立つ情報・サービス」を提供する「生活支援事業」を、奈良県北部・京都府南部において展開しております。

また、当社吉野線福神駅前の住宅地、花吉野ガーデンヒルズ内に、植物工場と農業用ハウスからなる「近鉄ふぁーむ花吉野」を2012年夏に整備し、秋から野菜の出荷を始めました。当社が良質で安全・安心な農産物の生産モデルを提示することで、耕作放棄地が目立つ沿線農業の活性化を図ることも目的にしています。

さらに、昨今の電力不足問題に対応するため、花吉野ガーデンヒルズ、三重県の志摩市・伊賀市、そして大分県にある当社住宅地など沿線の内外で、大規模太陽光発電事業への参入を進めております。このうち花吉野ガーデンヒルズにおいては、地震災害等の停電時に地元の地域防災拠点へ電力供給するシステムの構築を自治体等と共に検討しております。

次に観光地におきましては、四つの世界遺産などを有する路線の特徴を生かし、多彩な観光資源を活用し、地域を活性化させることに、創業以来力を注いでまいりました。その中でも第62回神宮式年遷宮を迎える伊勢志摩地域には、現在特に力を入れております。

2013年春に運行を開始した観光特急「しまかぜ」は、「乗ること自体が楽しみとなり、旅の目的になる列車」というコンセプトで、快適さを追求した試みが好評をいただいております。

また、伊勢志摩においては、地域の方々や地元自治体との連携を深めるために、キャンペーンなどに協力している他、実際に社員が地域の行事に参加しています。

鉄道会社の使命は、沿線の発展さらには社会の発展に貢献することです。すなわち、鉄道を走らせ、安全で快適・便利な輸送サービスを提供するとともに、様々な付帯事業を通じて、地域の皆様が必要とされるサービスを提供し、豊かな暮らしを実現することであると考えております。沿線は鉄道事業の苗床であり、経営資源を投じて、沿線価値を向上させ、沿線と共に成長を続けていきたいと考えております。

今後とも社会の発展に貢献することにより、人々の信頼を得て、企業価値を高めることに努めてまいります。

この「ＣＳＲレポート２０１３」をご覧頂き、当社の取り組みについて、ご理解を賜りましたら幸いに存じます。

近畿日本鉄道株式会社
取締役社長

小林哲也

目　次

会社概要
トップメッセージ

Ⅰ．企業体制
1．わたしたちが目指すもの…… 4
2．コンプライアンス…… 5
3．リスクマネジメント…… 6
4．コーポレートガバナンス／内部統制…… 7
5．人材活用…… 8
6．近鉄グループ経営計画（2010年度～2014年度）… 9

Ⅱ．事業紹介
1．運輸事業……11
2．不動産事業……11
3．流通事業……12
4．ホテル事業……12
5．観光・レジャー事業……13
6．スポーツ事業……13
7．文化事業……14
8．その他……14
特集 あべのハルカス ……15

Ⅲ．お客様・地域とともに
1．よりよいサービス提供のために……17
2．鉄道事業の取り組み……19
3．お客様への情報発信……22
4．お客様・地域社会とのコミュニケーション……23
5．株主・投資家のために……24

Ⅳ．安全報告
1．輸送の安全確保に関する基本的な考え方……25
2．安全管理体制と方法……26
3．事故・障害に対する報告……27
4．安全への取り組み……28
5．お客様・沿線の皆様へのお願い……36

Ⅴ．環境報告
1．環境理念および環境方針等……37
2．外部認証・表彰等……38
3．環境負荷低減の目標・実績……39
4．省エネ・省CO_2の取り組み……41
5．資源・廃棄物の有効利用……43
6．生物多様性に関する取り組み……44
7．環境啓発活動……45
8．環境関連法規への対応……45
特集 観光特急「しまかぜ」……46


あべのハルカス

編集方針

○報告内容範囲
当社が企業の社会的責任として取り組んでいる企業活動、安全推進活動、環境保全に関する報告を中心に掲載し、経済活動およびその実績の詳細については開示資料およびホームページに掲載しています。

○作成指針
以下のガイドライン等を参考にしました。
国土交通省鉄道局
「鉄軌道事業者による安全報告書の作成手引き」
環境省
「環境報告ガイドライン2012年版」
「環境会計ガイドライン2005年版」
日本民営鉄道協会
「民鉄事業会計ガイドライン2008年版」

○数値データ　集計対象期間
2012年4月1日～2013年3月31日

○対象範囲
数値データについては、当社（単体）を対象とし、取り組みについては、グループ会社や、2013年度の取り組みも一部紹介しています。

※可能な限り収集データには精度を求めましたが、一部推計として集計しているものもあります。

○本報告書は鉄道事業法第19条の4に定める安全報告書を兼ねています。

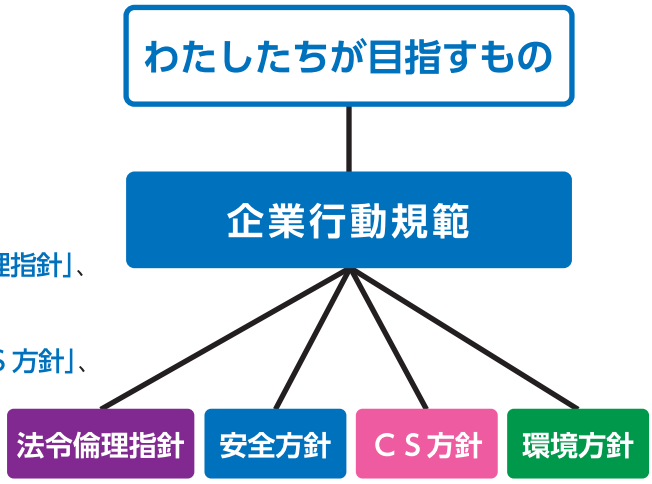
I. 企業体制

役員および社員が共有すべき目標として「わたしたちが目指すもの」、「企業行動規範」、「法令倫理指針」を定めており、その実効性の確保に取り組んでいます。

1. わたしたちが目指すもの

当社は、役員および社員が共有する理念として
「わたしたちが目指すもの」を明文化するとともに、
具体的な行動原則として、
「企業行動規範」を制定しています。

これらのもと、法令・企業倫理を遵守する**「法令倫理指針」**、
お客様の安全を第一に考える**「安全方針」**、
当社発展の原点はお客様のご満足にあるという**「CS方針」**、
環境にやさしい企業を目指す**「環境方針」**を
設けています。



「わたしたちが目指すもの」

**わたしたちは、進取の精神と誠実な企業活動により
社会の発展に貢献し、人々の信頼を得たいと願います。**

「企業行動規範」

企業行動規範	CSRレポート関係箇所	（参考）社会的課題との関係（ISO26000 7つの中核主題）
法令の遵守はもとより、高い倫理を保ち、誠実に行動します。	企業体制	公正な事業慣行
お客様の安全を最優先します。	安全報告	消費者課題（お客様への対応）
お客様の声を謙虚に受けとめ、お客様の立場に立ち、お客様が本当に求める商品とサービスを提供します。	お客様・地域 事業紹介	消費者課題（お客様への対応）
良き企業市民として地域社会の発展に貢献します。	お客様・地域	コミュニティへの参画およびコミュニティの発展
環境保全に真摯に取り組みます。	環境報告	環境
絶えざる経営革新により企業価値の増大を図り、投資家の期待に応えます。	企業体制	組織統治
適時・適切な情報開示を行い、経営の透明性を確保します。	企業体制	組織統治
社員の人格を尊重し、労使協調のもと明るく笑顔のあふれる職場づくりを心がけます。	企業体制	人権 労働慣行

(注)当社の企業行動規範は、社会的責任の国際ガイダンス規格であるISO26000の7つの中核主題をカバーしています。

(1)法令倫理指針

法令倫理指針

法令や企業倫理の遵守に関する指針を制定しています。また、役員、社員に小冊子「法令倫理の手引き」を配布し、周知を徹底しています。

私たち役員・社員全員は、この「法令倫理指針」をよく理解して、その遵守に努めます。また、経営をあずかる役員をはじめ組織の各責任者は、「企業行動規範」や「法令倫理指針」の実効性を確保するため、率先垂範のうえ、常に社内体制の整備を心がけます。

1. 法令遵守の徹底
2. 安全管理の徹底
3. 厳正な情報管理
4. インサイダー取引の禁止
5. 差別の禁止
6. セクシュアルハラスメントの禁止
7. 反社会的勢力との関係拒絶
8. 会社財産の適切な取扱い
9. 接待・贈答の節度
10. 公正な取引関係
11. 知的財産の適切な取扱い

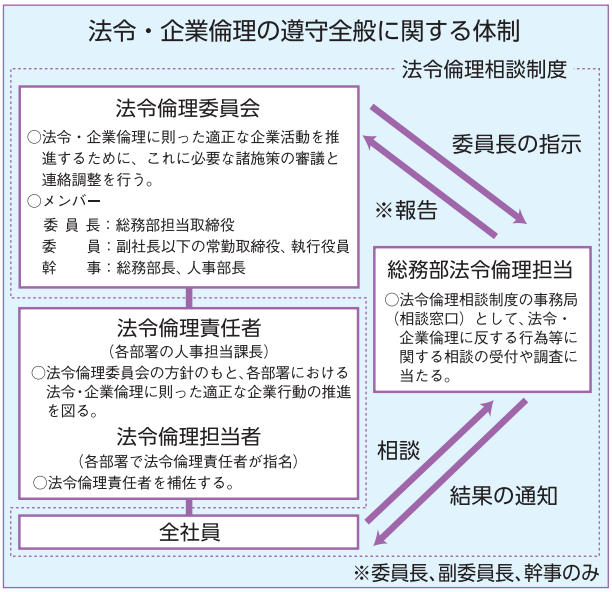
(2)コンプライアンス体制

法令倫理委員会

法令・企業倫理に則った企業行動を推進するため、「法令倫理委員会」を設置するとともに、各部署に法令倫理責任者および法令倫理担当者を置いています。

法令倫理相談制度

法令・企業倫理や社内規程に反する行為を早期に発見し、是正するため、社員やグループ会社社員からの通報や相談を受け付けています。



(2013年6月現在)

法令倫理講演会、階層別研修

役員、管理職およびグループ会社の役員などを対象とした法令倫理講演会を毎年実施するほか、定期的に職場内研修と階層別研修を実施しています。特に法令倫理責任者には、少人数形式の研修を行い、事例に基づく討議や意見交換を行っています。

インサイダー取引の防止

インサイダー取引を防止するために役員による当社株式売買は届出、事前審査を行っているほか、「法令倫理指針」の周知などにより、インサイダー取引の防止を図っています。

反社会的勢力との関係拒絶

反社会的勢力との関係は一切持たず、不当な要求には毅然とした対応をとります。

個人情報保護方針

お客様からお預かりするなど、当社が取り扱う個人情報に関して「個人情報保護方針」を定め、ホームページでも掲載しています。また、役員、社員に小冊子「個人情報保護の要点」を配布し、周知を徹底しています。

グループ会社の管理体制

グループ会社においてもコンプライアンス体制を確立し、適正な企業行動を推進しています。

- 当社監査部および監査法人による外部監査の強化
- 常勤監査役設置会社の拡大
- 当社監査部によるグループ会社監査の実施
- 当社役員による連結子会社社長との定期面談によるモニタリング
- 連結子会社に対するIT統制の強化
- 連結子会社への経理、総務担当者の派遣
- グループ会社対象の法令倫理相談窓口設置(当社総務部内)
- 当社社員派遣による法令倫理研修の実施　など

近鉄グループ各社の常勤監査役による会議

グループ会社のガバナンス向上のために、各社の監査役監査業務の報告や内外の講師による講演等を内容とし、年2回開催しています。



近鉄グループ各社の常勤監査役による会議

3. リスクマネジメント

(1)リスク管理

リスク管理に関する基本方針

内部統制システムの適切な整備・運用を図ることによりリスクの軽減を図り、企業価値向上に努めています。

また、「財務報告に係る内部統制の評価及び監査」を義務付けた金融商品取引法に対応し、財務報告に係る内部統制の基本的計画および方針を決定しています。

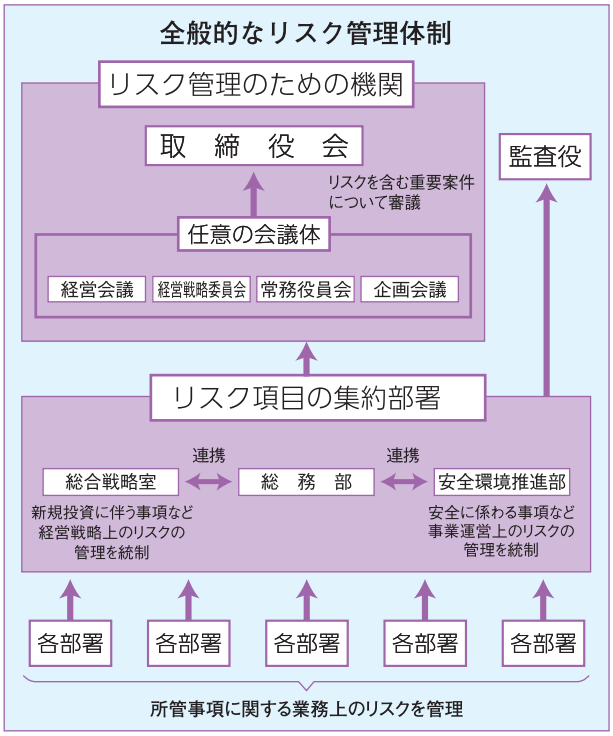
リスク管理規程の制定

当社およびグループ会社における事業等のリスクを適切に管理するための基本的な事項を定めた「リスク管理規程」を制定しています。このリスク管理規程に基づき、事業等のリスクを確実に把握し、リスクの発生に対する予防およびリスクが発生した場合の損失拡大防止の観点から適切な対策を立案、実施するリスク管理を行います。

リスク管理機関

リスク管理規程では、取締役会や経営会議などリスク管理機関を定め、リスク管理を行うこととしています。

事業ごとに洗い出されたリスクを全社的視点に基づき整理・集約し、「経営会議」等で、方向性や諸施策を審議しリスク案件のうち重要な業務執行については取締役会で決定しています。



(2013年6月現在)

(2)異例事態への対応

異例事態対応規程

主に以下の4つを異例事態として想定しています。

1. 大事故
2. 大地震などの大規模自然災害
3. 大規模な火災
4. テロなどの第三者による破壊行為

異例事態発生時には、その規模・状況に応じて、全社で異例事態に対応し、「異例事態対策本部」を設置することを、「異例事態対応規程」に定めています。

異例事態対応マニュアルの制定

異例事態のうち、とくに5つの状況を想定して、本社部門、鉄道事業本部、不動産、流通、ホテル、観光・レジャーの各事業統括部およびあべのハルカス事業本部において、迅速に適切な対応ができるように「異例事態対応マニュアル」を制定しています。

(想定状況)

1. 東海・東南海地震の発生
2. ターミナル駅火災の発生
3. 化学テロの発生
4. 列車事故の発生
5. 上町断層地震の発生

BCP(事業継続計画)

異例事態に対応できる能力の向上を目指し、BCP(事業継続計画)の策定を行い、2013年3月に完成しました。異例事態発生から、通常業務に復旧するまでに行う業務の優先順位と手順等を、あらかじめ整理し、迅速な事業復旧を目指すものです。

社員安否確認システムの導入

震度5弱以上の地震が発生すると役員・社員の携帯電話等へメールが自動で送信され、各自が自身の安否等を報告し、その状況を自動集計します。

国民保護法への対応

「武力攻撃事態等における国民の保護のための措置に関する法律」の規定に基づき、「国民保護業務計画」を策定しています。

連絡体制の整備や、通信体制の確保、安全の確保、旅客への情報提供、避難住民の運送等について計画を定めています。

4. コーポレートガバナンス／内部統制

(1)コーポレートガバナンス

社会の信頼を得るため透明度が高く公正な経営体制を構築する事が重要な課題であると考え、コーポレートガバナンスの充実を図っています。

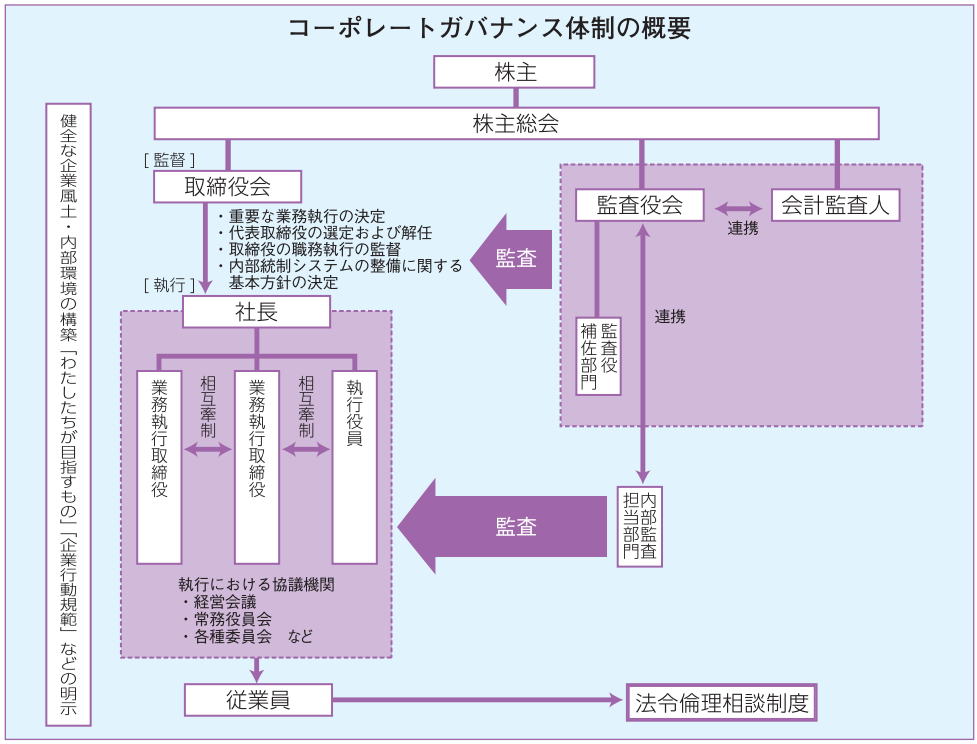
取締役

当社の取締役は17名ですが、そのうち4名は社外取締役であり、幅広い見地から示される意見を経営に反映させるとともに、経営監督機能の強化を図っています。さらに、取締役任期の1年への短縮、取締役および監査役に対する退職慰労金制度の廃止、執行役員制度の導入などの諸施策を実施し、経営責任の明確化と経営の効率化に努めています。

取締役会は、原則として毎月1回開催し、重要な業務執行を決定するとともに、業務執行取締役および執行役員による業務執行の状況を監督しています。

監査役

当社の監査役は5名ですが、そのうち3名が社外監査役であり、監査の厳正、充実を図っています。監査役会は原則として毎月1回開催し、監査の基本方針等を決定するとともに、各監査役が実施した日常監査の結果を報告し監査役間で意見の交換等を行っています。



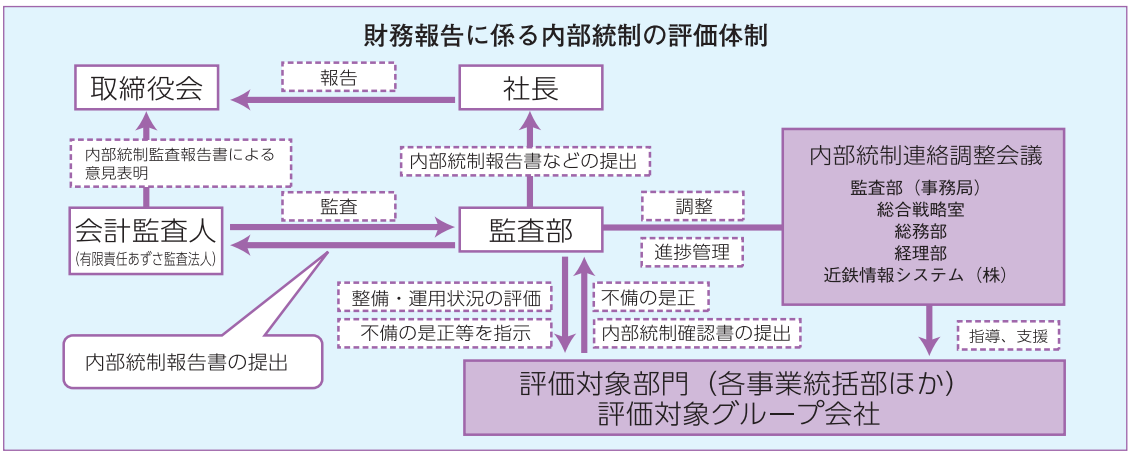
(2013年6月現在)

(2)内部統制

会社法に基づき、業務の適正を確保するために必要な体制（いわゆる内部統制システム）の整備について決定しており、この決定に基づいてその整備に努めています。

金融商品取引法に基づく財務報告

金融商品取引法に基づく財務報告に係る内部統制については、財務報告を法令等に従って適正に作成することの重要性を十分に認識し、必要な体制等を適切に整備、運用することとしています。



(2013年6月現在)

5. 人材活用

(1) 人材育成のための取り組み

教育研修

社員の経験に合わせ、新入社員研修、中堅社員研修等の研修を実施しています。



自衛隊研修

資格取得・通信教育の奨励

社員の資質向上のための一環として、各種資格取得や通信教育受講の支援補助金制度を行っています。

(2) 働きやすい職場作りへの取り組み

人権問題

個人の尊厳を保障し、明るい職場、社会をつくるために、社員のキャリアアップに合わせて人権研修を実施しているほか、各職場に教育指導員を配置し、日常教育を推進しています。

メンタルヘルス相談窓口

社外にメンタルヘルス相談窓口を設置し、社員の心の健康保持を図っています。

セクシュアルハラスメント相談窓口

法令倫理相談窓口のほか人事部、各輸送統括部に相談窓口を設置して社員の声を聞き、適切な対応が取れる体制を整えています。

(3) 雇用への取り組み

高齢者の再雇用

高年齢者雇用安定法に則り、定年退職者の希望者に再雇用先を紹介しています。

障がい者の雇用

2013年3月末日現在、当社の障がい者雇用率は1.86%で、法定雇用率を上回っております。

女性の雇用

男女雇用機会均等を確保するほか、育児休業時間の規程、妊娠中の女性の就業時間の規程などを細かく定め、働きやすい環境を整えています。

(4) 仕事と生活の調和のための取り組み

ノー残業デー

本社ほか事務所においては、毎週水曜日をノー残業デーにしており、仕事の効率を高めるとともに、仕事に対する意識を向上させるための取り組みも行っています。

家族の職場見学会

社員の家族を招待し、職場見学会を開催しました。家族の仕事への理解を深め、社員も仕事のやりがいや誇りを感じられる機会となりました。



家族の職場見学会（西大寺検車区）

(5) 労働安全衛生に係る取り組み

労働安全および労働衛生の管理方針を各職場に掲げ、社員が一丸となり労働安全衛生に積極的に取り組んでいます。

社員一人ひとりに事故や労働災害がなく、健康で明るく生き生きと働ける職場環境を作ることが、お客様へのよりよいサービスの提供につながるものと考え、実地訓練などを通じ基本動作の習得に努め、労働災害ゼロ職場を目指しています。また、定期健康診断の結果に基づき、産業医の指導のもと、生活習慣の改善にも取り組んでいます。

(6) 労働組合

労使の絆を大切にしながら、会社の発展と、社員が意欲を持って仕事に取り組める労働条件の構築や、職場環境の整備に向けてさまざまな取り組みを進めています。

会社・労働組合・健康保険組合共催による「潮干狩り」や「みかん狩り」等のイベントを開催し、社員や家族の親睦を図っています。



潮干狩り

6. 近鉄グループ経営計画（2010 年度～ 2014 年度）

近鉄グループ経営計画とは

2010年に創業百周年を迎えた当社では、成長の礎となる各種プロジェクトを推進してきました。次の段階として、阿部野橋ターミナルビル（あべのハルカス）が完成する2014年度までは、各種プロジェクトを着実に実現すると共に構造改革を進め、新たな収益基盤の確立に向けた事業創出を図ってまいります。本経営計画の期間は、2010年度から2014年度までとし、「基盤強化期」と位置づけます。（2010年5月12日発表）

基本方針

①鉄道の原点である安全の確保と快適な輸送サービスの提供を基本に、2014年度までの間は、三大ターミナルプロジェクトをはじめ、鉄道業を中心に沿線深耕に注力します。
当社百年の歴史の重みと沿線の文化・観光の厚みを踏まえ、グループの総力を挙げた事業展開により沿線の利便性、魅力度向上を図ります。

②少子高齢化・人口減少など市場の変化に対応すべく、全事業において適正な利益を確保するために、経済成長期の仕組みを見直して、構造改革を着実に進めると共に、収益基盤の確立に向けた事業創出を図り、新たな成長戦略を描きます。

③グループ経営については、戦略機能と管理機能を強化し、グループの総合力を高める施策や再編を実施します。

経営数値目標

量の拡大より利益の確保を重視し、阿部野橋ターミナルビル完成までの間、現行の配当水準を安定的に維持するために必要な利益と財務体質の健全性を確保します。

2014年度に、下記の数値目標を目指します。

	2010年度実績	2011年度実績	2012年度実績		2014年度目標
連結営業収益	9,600億円	9,427億円	9,321億円	➡	1兆1,000億円
連結営業利益	399億円	402億円	474億円	➡	600億円
連結当期純利益	143億円	86億円	200億円	➡	200億円
連結有利子負債	1兆3,248億円	1兆2,909億円	1兆2,767億円	➡	1兆2,800億円
EBITDA 倍率	15.2倍	14.6倍	13.5倍	➡	11.0倍

（EBITDA＝営業利益＋減価償却費）



近鉄百貨店　あべのハルカス近鉄本店

三大ターミナルプロジェクト

グループの総合力を活かした阿部野橋、上本町、京都の三大ターミナルの整備に取り組みます。

1. 阿部野橋ターミナルビル（あべのハルカス）整備
   - 日本一の高さ300m、地上60階の超高層複合ビル「あべのハルカス」を整備します。（2014年春完成予定）（2013年6月百貨店の一部が先行オープン）
   - 百貨店、ホテル、オフィス、美術館、展望台を備えます。
2. 上本町ターミナル整備
   - 大阪新歌舞伎座を中心とする複合商業施設「上本町YUFURA」を整備しました。（2010年8月開業）
3. 京都駅ターミナル整備
   - 宿泊特化型ホテル「ホテル近鉄京都駅」を新設しました。（2011年10月開業）
   - 新ホーム（4番線）を設置しました。（2012年3月）
   - 駅ナカショッピングモール「タイムズプレイス京都」を開業しました。（2011年9月開業）



あべのハルカス

鉄道事業の主要施策

鉄道事業においては、安全の確保と適正な利益の確保を実現すべく、これまでのハード中心の投資を見直し、ソフト面の整備による効率的な運営体制を構築します。

①抜本的ダイヤ見直し（2012年3月実施）

②組織の再編と運営体制の再構築
- 駅、列車区の運営体制、保守体制の構築

③営業政策と営業システムの再構築
- 観光特急「しまかぜ」の導入
- 「伊勢志摩ライナー」ほかの全面リニューアル、販売システム刷新などによる特急サービスの向上
- 観光列車「つどい」の導入や近鉄エリアキャンペーンの実施など地元と連携した観光強化

その他事業の主要施策

○不動産事業
- ・けいはんな線沿線・あやめ池遊園地跡地等の開発
- ・保有資産・遊休地の有効活用

○流通事業
- ・百貨店・スーパーの連携によりグループ流通事業の経営基盤を強化
- ・駅ナカ事業の効率的な店舗展開

○ホテル・レジャー事業
- ・阿部野橋ターミナルビル「あべのハルカス」や京都駅等の新規ホテル開業
- ・既存ホテルのリニューアル等による競争力強化
- ・奈良・伊勢志摩地域におけるグループ事業の強化
- ・横断的に観光施策を推進するための組織の一元化



びわこ近鉄レストラン

農業ビジネスへの参入

新規事業の一環として、2012年7月、新たに農業ビジネスに参入しました。「近鉄ふぁーむ花吉野」は、完全人工光型植物工場と農業用ハウスからなり、植物工場ではレタス等の葉物類やラディッシュ等の根菜類を、またハウスでは高糖度トマトを生産しています。なお、2013年度の生産量は、レタス類で21万株、トマトで25tの予定です。



植物工場



農業用ハウス



ブランドロゴ

経営推進体制の強化

昨今の激変する経済環境や、少子高齢化・人口減少等の社会構造の変化に柔軟かつ迅速に対応すべく、社長直轄の「経営戦略委員会」を新設し、経営体制の一層の強化と、全事業における抜本的な構造改革を推進すると共に、新たな事業創出に向けた体制を整えました。

事業創出の推進

沿線において、近鉄グループの総合力を活かした生活者支援事業を推進し、「衣・食・住」それぞれの場面において、生活者のライフサイクル、ライフスタイルに応じた新たなサービスの展開を図ります。また、あわせて未利用土地の有効活用の検討を進めます。

太陽光発電ビジネスへの参入

未利用土地の有効活用の一環として、太陽光発電事業に参入しました。三重県伊賀市ゆめが丘住宅地の施設用地などの４ヶ所で事業を実施中で、総規模約24,000キロワットの発電を計画しています。

なお、2013年9月の三重県志摩スペイン村ソーラー発電所をはじめ、奈良県大淀町、大分県大分市の3ヶ所で2013年度中の発電開始を予定しています。



太陽光発電（志摩スペイン村）

グループ経営の強化

グループの総合力を高める施策や再編を実施し、収益向上・財務体質改善など、経営基盤を強化します。

（具体的施策）
- ・鉄道技術系グループ会社を統括するため、近鉄技術ホールディングス（株）を設立（2011年6月）
- ・（株）近商ストアとセブン&アイ・ホールディングスグループが資本業務提携（2011年9月）
- ・（株）近鉄百貨店が第三者割当増資を実施（2011年10月）
- ・近畿日本ツーリスト（株）がクラブツーリズム（株）と経営統合し、KNT-CTホールディングス（株）へ商号変更し、持株会社体制へ移行（2013年1月）
- ・駅ナカ売店・コンビニ事業についてファミリーマートと業務提携（2013年3月）
- ・グループのタクシー会社を一元的に管理するため、近鉄タクシーホールディングス（株）を設立（2013年4月）

Ⅱ. 事業紹介

近鉄グループでは、鉄道、バス、住宅、百貨店、スーパー、ホテル、旅行、レジャー施設など様々な分野で、
沿線のお客様の生活を支えています。

1. 運輸事業

鉄道事業

大阪府、京都府、奈良県、三重県、愛知県の2府3県にわたる路線を運行しています。


伊勢志摩ライナー

近鉄バス㈱


ハイブリッドバス

伊賀鉄道㈱


忍者列車

養老鉄道㈱


薬膳列車

近鉄タクシー㈱



EV タクシー

2. 不動産事業

住宅地・マンション開発

沿線を中心に住宅地・マンションの開発を近鉄不動産（株）等と共同で進めており、これまで多くの住宅やマンションを分譲しています。


あやめ池住宅地


ローレルスクエア白庭台Ⅱ

賃貸事業

オフィスビル・商業施設・賃貸住宅・高架下店舗・駐車場等を経営しています。


近鉄新難波ビル


学研奈良登美ヶ丘住宅地

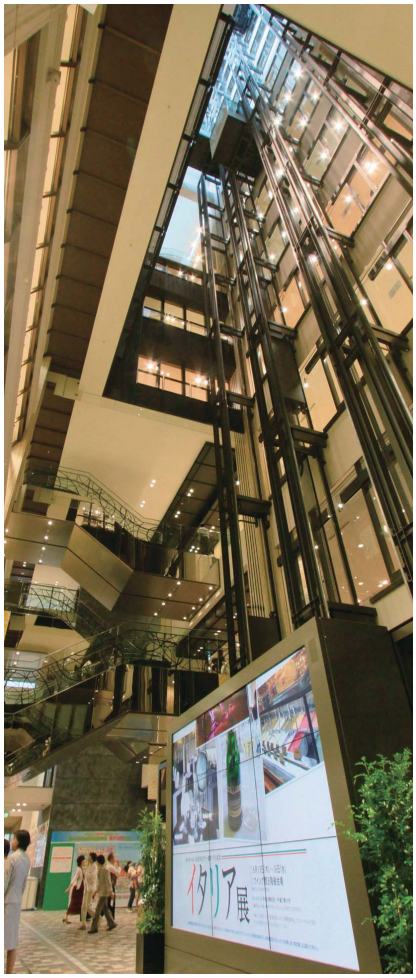

ローレルスクエア学園前



パラディ学園前

3. 流通事業

㈱近鉄百貨店



あべのハルカス近鉄本店

㈱近商ストア


スーパーマーケット KINSHO 大和高田店

駅ナカ店舗

駅構内の駅ナカ店舗(売店・コンビニ・専門店・フード等)を管理運営しています。また、「Time's Place」の名称で、難波、西大寺、京都、宇治山田にてショッピングモールを運営しています。


Time's Place 西大寺



カフェ　チャオプレッソ奈良駅店

サービスエリア

浜名湖サービスエリアをはじめ、高速道路上のサービスエリアを7ヶ所運営しています。


浜名湖サービスエリア



刈谷ハイウェイオアシス

4. ホテル事業

「都ホテルズ&リゾーツ」

「都ホテルズ&リゾーツ」のブランドで国内外 22 ホテルを展開しています。直近では 2011 年 10 月に「ホテル近鉄京都駅」がオープンしました。

「シェラトン都ホテル東京／大阪」、「ウェスティン都ホテル京都」および「あべのハルカス」に 2014 年春開業予定の「大阪マリオット都ホテル」は、海外ホテルチェーンと提携しています。


ウェスティン都ホテル京都


シェラトン都ホテル東京


シェラトン都ホテル大阪


志摩観光ホテル ベイスイート


ゲストサービス

5. 観光・レジャー事業

近畿日本ツーリスト



近畿日本ツーリスト

クラブツーリズム


クラブツーリズム

生駒山上遊園地

標高642メートルの生駒山上にある、入園無料の遊園地です。園内には約30種類のアトラクションやゲームコーナーなどがあります。

園内からは大阪平野が広がる素晴らしい景色を眺めることができ、ナイター営業時は夜景も楽しめます。


生駒山上遊園地

志摩スペイン村

テーマパーク「パルケエスパーニャ」を中心に、ホテル、天然温泉をあわせもつリゾート空間です。誰もが楽しみながらスペインの豊かな心とふれあえる空間作りをめざし、人と自然の調和・共存を大切にしています。


志摩スペイン村　©SHIMA SPAIN VILLAGE CO.,LTD.

旅館・料亭

「奈良 万葉若草の宿 三笠」「奈良・春日奥山 月日亭」など4館の宿泊施設と、「料亭 百楽荘」「あやめ館」の料亭2館を運営しています。


料亭 百楽荘

6. スポーツ事業

近鉄ライナーズ

近鉄ラグビー部「近鉄ライナーズ」がジャパンラグビートップリーグで活躍し、2012年度は7位でした。

1929年創部の80余年の伝統を誇り、日本選手権を過去3度制覇し日本一に輝きました。


近鉄ライナーズ

近鉄花園ラグビー場

近鉄花園ラグビー場では、ラグビーカーニバル等のイベントを行うほか、毎年5月の東大阪市民ふれあいまつりにグラウンドを開放するなど、地域と交流を図っています。

また、ジャパンラグビートップリーグや、全国高校ラグビーフットボール大会の会場に使用され、「ラグビーの聖地」として全国的に知られています。


近鉄ライナーズ　ラグビー教室

伊勢志摩地区でのスポーツイベント協賛

伊勢志摩地区では、大型ウオーキングイベント「伊勢志摩ツーデーウオーク」を始め、「志摩ロードパーティ ハーフマラソン」や、近鉄賢島カンツリークラブで行われる「ミズノクラシック～伊勢志摩～」に特別協賛しています。


伊勢志摩ツーデーウオーク

7. 文化事業

大和文華館

東洋美術および関係諸文化に関する資料を収集・展示し、その研究にも力を入れている大和文華館では、講演会や、小学生から高校生を対象とした鑑賞教育、大学の博物館実習等、教育普及活動も実施しています。

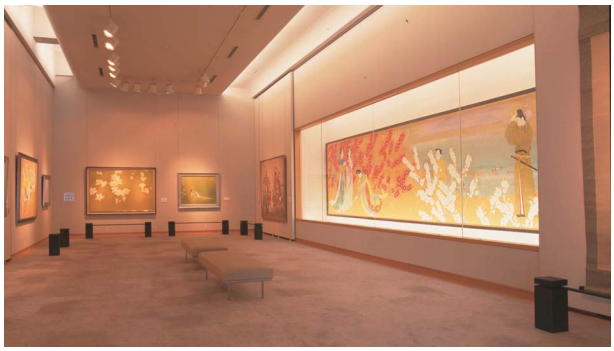


大和文華館

松伯美術館

日本画家上村松園・松篁・淳之三代にわたる作品を中心に、美術作品の収集および一般公開を行っています。

また花鳥画に取り組む若手作家の育成を図るための公募展も開催しています。



松伯美術館

近畿文化会

文化財愛護の心を養い、歴史的知識を高めるため専門講師の執筆による月刊の文化冊子「近畿文化」を発行しています。また、近畿地方を中心に、史跡、古社寺などの文化財を訪ねる臨地講座を毎月2回以上開催しています。

大和文化会

首都圏においても当社沿線の魅力を発信するため、東京地区において、奈良大和路の歴史・文化を紹介する月例講演会・公開講座等を開催しています。

旅の文化研究所

「旅の文化」について、その質的向上を目的とし、人間的、学際的、国際的な立場から調査・研究し、出版や講演などの活動を行っています。

8. その他

近鉄グループ

近鉄グループは鉄道を中心に、バス・タクシー、物流、海運、自動車道・ロープウェイ・レンタカー、旅行、ホテル・旅館、遊園地・ゴルフ場、飲食、サービス、流通、自動車販売、製造・建設、情報通信・介護・保険、不動産など、幅広い事業活動をおこなっており、沿線のみなさまの生活に密着したサービスをご提供いたします。

KIPSカード

クレジットカードや現金専用のポイントカード、PiTaPaやICOCAとして使えるカードがあります。近鉄電車や近鉄百貨店、近商ストアなど、近鉄グループの店舗・施設でのご利用に応じてポイントがたまります。



KIPS カード

生活応援事業「近鉄“楽・元気”生活」

グループ各社とともにご提供する生活応援事業は、人々が楽しく元気で暮らせる街づくりを進めることを目標に掲げ、生活に関わる多様で便利なサービスの提供といったソフト面から、沿線価値の向上に取り組んでいます。

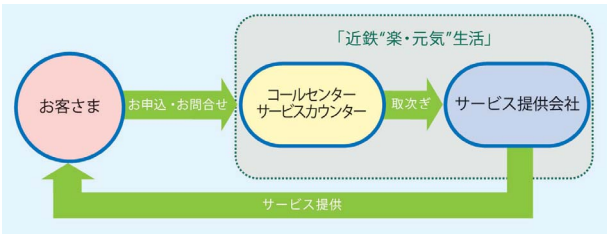
奈良市、生駒市を中心とした地域で実施しており、コールセンターを介した「ワンストップ&シームレス」サービスを実現しています。また、「楽・元気」プラザ（学園前商業施設パラディ南館6階）において、暮らしに役立つセミナー・イベントを開催しています。

近鉄「楽・元気」生活コールセンター

0120-841-333

受付時間10:00～20:00

近鉄 楽・元気 生活
raku-genki



日本一の高さ300mの超高層複合ビルが2014年春 誕生します。


あべのハルカス

展望台 | 日本一高いビルの最上階に「驚きと癒しの空間」が誕生

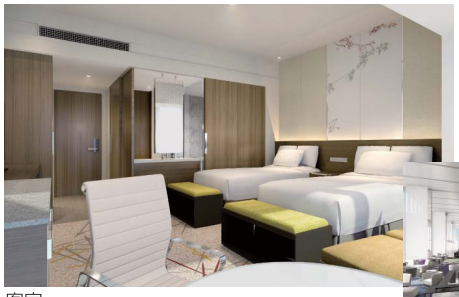
名称：「ハルカス300（さんびゃく）」
コンセプト：驚きと癒しの空間、「ハルカス300」

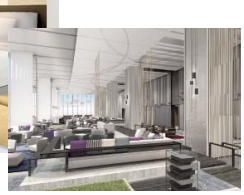

ハルカス 300


60 階屋内回廊

ホテル | 関西初のマリオットブランド

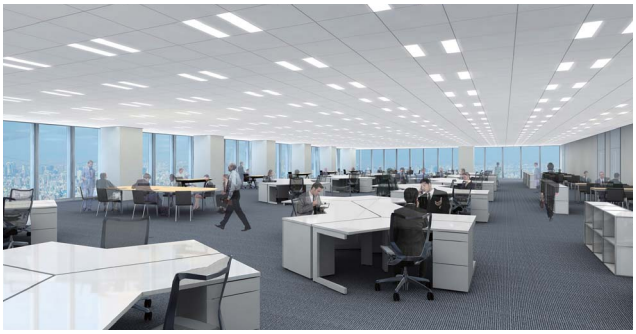
名称：大阪マリオット都ホテル
コンセプト：世界水準のホスピタリティと日本のおもてなしが融合した高品質な国際的都市型ホテル


客室


ホテルロビー

オフィス | ワンランク上の最先端オフィス

コンセプト：大阪有数の規模と最先端設備
（ワンフロア：約730坪・天井高2.9m）


オフィスイメージ

美術館 | 誰もが気軽に楽しめる、人とアートがふれあえる拠点

名称：「あべのハルカス美術館」(ABENO HARUKAS Art Museum)
コンセプト：Art×Human―あらゆるアートを、あらゆる人に。

あべのハルカス美術館
ABENO HARUKAS ART MUSEUM


展示室

2013年6月「あべのハルカス近鉄本店 タワー館」が先行開業しました。



オープン時の様子


あべのフード・シティ


ビューティーオアシス


近鉄バス

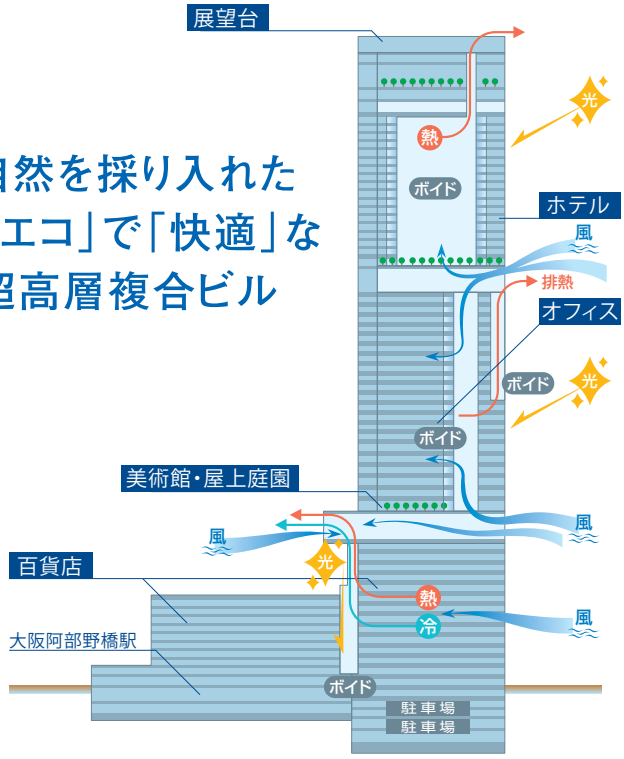
大阪上本町駅とあべのハルカスを結ぶ循環バスの運行を開始しました。


あべのハルカスダイニング「Ikitsuke」(行きつけ)


Kodomoの街「Park」

あべのハルカスの環境取り組み

自然を採り入れた「エコ」で「快適」な超高層複合ビル



吹き抜け（ボイド）で、
自然エネルギーを効率よく利用します。

癒しの屋上庭園で、都市環境の改善と
雨水等の利用による節水を図ります。

厨房ゴミ等を利用したバイオガス発電で、
CO_2 の削減、エネルギー回収を実現します。

年間約 5,000 トンのCO_2 削減を目指し、
環境にやさしい街づくりを推進します。

Ⅲ. お客様・地域とともに

事業を通じて、お客様および沿線地域の発展と幸福に寄与するために、より良いサービスを提供し、
沿線の魅力を高め、沿線の繁栄に貢献してまいります。

1. よりよいサービス提供のために

CS方針

当社発展の原点はお客様のご満足にあるという認識のもと、全社員が心のこもった行動で、お客様第一主義を実践することにより、お客様の支持を得、近鉄ブランドを確立し、業績の向上を図ります。

①私がCS担当者

「私がCSの担当です。」という自覚を持ち、誠実に、お客様に接することにより、広くお客様の信頼を得ていきます。

②「WELCOME TO 近鉄」キャンペーンの実践

お客様の立場に立って、接遇向上運動「WELCOME TO 近鉄」キャンペーンを、積極的に実践していきます。

③お客様の声を大切に

お客様の声を社内で共有し、ニーズを的確につかみ、お客様が本当に求めている商品やサービスの提供をめざします。

（注）当社ではCS（Customer Satisfaction）を、「お客様のご満足をめざす組織的かつ永続的な企業活動」と定義します。

社員提案制度

社員から新規事業や業務改善等に関する提案を募集し、優秀な提案者を表彰しています。この制度は、業務効率やサービスの向上、収益の拡大、事故防止等を目的としています。また、提案の提出において、社員が職場で話し合いの場を持ちますので職場の活性化も期待できます。

2012年度に実施した第21回社員提案では、113件の応募があり、委員長賞5件をはじめ、各賞を授与しました。

（提案の内容）

①新規事業に関するもの。
②資産の有効活用に関するもの。
③新商品、新サービスに関するもの。
④作業能率、事務能率の増進に関するもの。
⑤資材、エネルギー、経費の節減に関するもの。
⑥サービスの向上に関するもの。
⑦故障、事故の防止に関するもの。
⑧安全衛生、環境対策に関するもの。
⑨その他業務効率の向上および収益拡大に資するもの。

お客様の声システム（当社へのご意見・ご要望）

「近畿日本鉄道へのご意見・ご要望」を、当社ホームページや、駅に設置している「お客様の声」投函ボックスから、お寄せいただけます。

○お客様の声投函ボックス設置駅（8駅）

大阪難波駅、大阪上本町駅、近鉄奈良駅、京都駅、大阪阿部野橋駅、近鉄名古屋駅、近鉄四日市駅、宇治山田駅



お客様の声投函ボックス

（「お客様の声」2012年度　受理件数7,819件）

「お客様の声」年度別推移

	ご意見・ご要望	ご褒詞	お問い合わせ	計
2008年度	3,189件	63件	1,154件	4,406件
2009年度	3,339件	91件	1,197件	4,627件
2010年度	4,507件	93件	875件	5,475件
2011年度	4,867件	124件	874件	5,865件
2012年度	6,309件	252件	1,258件	7,819件

（「ご意見・ご要望」の主な内容）

お客様の声	2012年度	2011年度
鉄道営業（インターネット予約、ICカード、企画乗車券、放送など）	1,336件	1,055件
鉄道運転（ダイヤ、定刻運転、異例時対応、車両運用など）	1,219件	1,085件
鉄道応対（接客、空調操作など）	1,143件	815件
鉄道設備	618件	512件
鉄道環境（騒音、振動、清掃、タバコ、節電など）	552件	542件
鉄道マナー	386件	235件
鉄道その他	142件	138件
グループ	193件	159件
本社・その他（ホームページを含む）	720件	326件
計	6,309件	4,867件

お客様から頂いたご意見・ご要望に対しては、お客様の声を「お客様視点」で分析して組織横断的に検討し、効率的にサービス改善を進めていくことで、より一層お客様にご満足いただけるサービスを提供していきたいと考えています。

また、担当部署より回答した内容は、社内ネットに公開され、役員をはじめ本社部門の全社員、現業職場の監督者が閲覧でき、情報を共有し、サービス向上への取り組み・教育や、施設改良への取り組み等に活用しています。

お客様の声をもとに改善した事例

マタニティマークを周知してほしい

かばんにマタニティマークを付けていますが、まだ妊娠初期なので優先座席の前に立っていても気付かれず、席をゆずってもらえません。マタニティマークを周知してもらえるよう車内に掲出してほしい。

これまでも各車両の優先座席付近に、妊産婦のお客様を表す絵(ピクトグラム)を用いたステッカーを掲出していましたが、妊娠初期の妊産婦のお客様にもより安心して乗車いただけるよう、マタニティマークを含めた新しい優先座席ステッカーに更新しました。



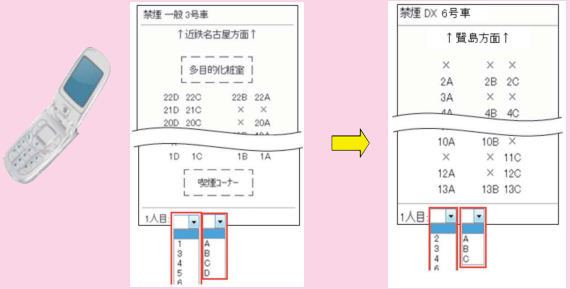
マタニティマークを含めた優先座席ステッカー

近鉄特急チケットレスサービスでの特急乗り換え時に座席を選びたい

近鉄特急チケットレスサービスで特急電車を予約するとき、乗り換えなしだとシートマップで座席を選べますが、乗り換えが発生すると選べません。乗り換え時もシートマップで好きな座席を選べるように対応してほしい。

2013年2月よりシステムを変更し、特急乗り換え時にもそれぞれシートマップで、お好きな座席を選べるように対応しました。

①1列車目「一般席」選択　②2列車目「DX席」選択


チケットレス予約画面

非常通報押しボタン操作箱の安全対策

北田辺駅エスカレーター前の柱の非常通報押しボタン操作箱は、列車に気を取られると、箱の角に肩をぶつけてしまうことがあります。危ないので何とかしてほしい。

ホームの非常通報押しボタンは2両に1カ所を目安に、お客様の目に付きやすく、通行に支障のないよう配慮して設置しています。しかし、今回のご指摘を踏まえ、当該操作箱の角には保護カバーを設置しました。



非常通報押しボタン操作箱　保護カバー

お客様からのおほめの言葉(ご褒詞)

足の不自由なおばあさんが乗車された時に、誰も席を譲る人がおらず、車掌さんが優先座席に座っていた学生に「席をお譲り頂けませんか」と毅然とした態度で言ってくれて、心の中で拍手を送りました。

電車の中で貧血を起こし、一時下車した際に、車掌さんが迅速に駅員さんを呼び、駅員さんはベンチへ誘導し、水を持ってきて介抱してくれました。再度乗車する際も、駅員さんが車掌さんや降車駅に伝えていただき、心強かったです。

2. 鉄道事業の取り組み

お客様の立場に立ち、お客様が本当に求める商品とサービスの提供につとめます。

駅・車両のバリアフリー化

沿線の主要駅では改札口からホームまでの段差を解消し、円滑に移動できるようにエレベーターおよびスロープ等の整備を進めています。これらは「バリアフリー法」に基づいて行っています。

駅を快適にご利用いただけるように　（2013年3月31日現在）

施設および設備	設置状況	備　考
車いす対応トイレ	145駅	
うち多機能トイレ	116駅	

車いす利用の方をはじめ、全てのお客様がスムーズに移動できるように

施設および設備	設置状況	備　考
エレベーター	107駅	全327駅のうち281駅で、駅構外からホームまで段差なしで移動できます。
エスカレーター	83駅	

目の不自由なお客様が安全に利用いただけるように

施設および設備	設置状況	備　考
誘導チャイム	86駅	このほか階段手すりへの点字シールの設置も進めています。

耳や言葉の不自由なお客様のために

施設および設備	設置状況	備　考
FAXサービス	21駅	主要な駅営業所等で取り扱っています。

（注）各項目とも、鋼索線駅（6駅）を除く全327駅（伊賀線、養老線を含む）を対象。

2012年度の取り組み

・畝傍御陵前駅において多機能トイレ（オストメイト対応型）化
・車両内の車椅子スペースの設置

上記のほか、転落防止用外幌、車両連結部転落防止用注意放送装置、転落検知マット、車内案内表示器などを追設しています。



多機能トイレ

券売機・改札機

どなたでもお使いいただけるように操作パネルを低くした券売機や、通路の幅が広くなった改札機の設置を進めています。



券売機



幅広改札機

駅舎の改築

伊勢市駅では、神宮式年遷宮にあわせて60年ぶりに改築をおこない、2013年7月に完成しました。



伊勢市駅

旅客案内テレフォンセンター

近鉄電車の運賃や列車時刻、催し物、忘れ物などのお問い合わせを承ります。

電話（大阪）06-6771-3105
（名古屋）052-561-1604
8:00～21:00（年中無休）（2013年7月1日現在）

女性専用車両

奈良線において、平日ダイヤの始発から午前9時30分までに大阪難波駅に到着する快速急行の最後尾1両を女性専用車両としています。

こども110番の駅

こどもを犯罪から守るため、全国的な地域活動として始まった「こども110番の家」を、鉄道駅へと広げる取組みで、当社では駅長所在駅等で取り組んでいます。

「こども110番の駅」では、目印となるステッカーを見て、こども達が駅に助けを求めてきた場合に保護し、110番通報を行うなどの対応をとります。



こども110番の駅　ステッカー

サービス介助士

お年寄りやお体の不自由なお客様にも快適にご利用いただけるよう「サービス介助士」の資格取得者を主要駅に配置しています。

AEDの設置

主要駅29駅やオフィスビル、本社等にAED（自動体外式除細動器）を設置しており、AEDの取扱い研修を受けた係員を配置しています。

ICカードサービス

当社線では、一部の路線を除き、スルッとKANSAIの「PiTaPa」とJR西日本の「ICOCA」のほか、2013年3月からJR東日本の「Suica」をはじめ全国の主要な交通系ICカード、あわせて10種類がご利用いただけます。

また2012年12月から当社による「ICOCA」、「KIPS ICOCA」の発売および、これらのICカードによるIC定期券を発売しています。なお、JR西日本、京阪、阪神、JR東海とのIC連絡定期券も発売しています。

今後もICカードの利便性向上にむけ、IC定期での連絡範囲の拡大に取り組んでまいります。



ICOCAカード



KIPS　ICOCAカード

相互直通運転

以下の3社局と相互直通運転を実施することにより、乗換えなしの便利な鉄道利用を実現しています。

相手社局	運転区間	効果
阪神電鉄	近鉄奈良駅～三宮駅	奈良と神戸を直結
大阪市交通局	学研奈良登美ヶ丘駅～コスモスクエア駅	けいはんな学研都市、大阪都心、ベイエリアを直結
京都市交通局	近鉄奈良駅～国際会館駅	奈良と京都都心を直結

インターネット予約・発売サービス

特急券を事前にインターネット（携帯電話・スマートフォン・パソコン）で購入できるサービスで、駅で特急券を受け取らずそのままご乗車できるチケットレスサービスや、お好みの座席をシートマップで選択（乗継列車ごとに選択可能）いただける機能など、利便性・操作性のより一層の向上に努めています。



シートマップ



予約画面

電車の利用促進

環境に優しい電車の利用を促進するため、回数券のほか、運賃や特急料金と沿線の観光地・施設等への入場券等を割引セットした「まわりゃんせ」「伊勢神宮初詣割引きっぷ」など、お得なきっぷを各種発売しています。

また、近鉄沿線の自然、歴史、文化などをお楽しみいただけるよう、奈良の神社、仏閣、名所旧跡等を紹介するガイドブック「大和を歩こう」を主要駅で配布しています。



おトクなきっぷ「まわりゃんせ」





大和を歩こう

沿線ハイキングの開催

近鉄沿線の豊かな自然、史跡、街道、酒蔵等をめぐるハイキングコースを設定し、多数のお客様にお楽しみいただいています。

近鉄あみま倶楽部

手軽に入会できる会員制のハイキング倶楽部（年会費：千円）です。会員証には乗車券・特急券等の割引券が付いており、入会時にお渡しするハイキングマップを手に、沿線各地のハイキングを楽しんでいただけます。



近鉄あみま倶楽部

車両の紹介

特急車両、一般車両、団体専用車両など様々な車両が計1,934両あり、点検・整備することで安全に運行しています。
また、環境にやさしい省エネルギー車両の導入を進めています。

50000系　しまかぜ



23000系 伊勢志摩ライナー



26000系 さくらライナー



21020系 アーバンライナー ネクスト(next)



21000系 アーバンライナー プラス(plus)



30000系 ビスタEX



22600系 Ace



15400系 かぎろひ



15200系 あおぞらⅡ



5820系　シリーズ21



5800系　L／Cカー



7020系



生駒鋼索11系(ミケ・ブル)



観光列車　つどい



2013年10月登場の観光列車で、伊勢市～賢島間を期間限定で運行します。車内を風が吹き抜ける「風のあそびば」やイベントスペース、窓向きに設置された座席で、沿線の風景を眺めながらおくつろぎいただけます。

3. お客様への情報発信

ホームページ

近鉄電車のダイヤ・運賃検索やご利用案内、企業情報、沿線情報などを紹介しています。

http://www.kintetsu.co.jp



ホームページ

近鉄ニュース



近鉄ニュース

毎月1回発行し、近鉄電車や沿線イベント情報、広報だよりなどをお知らせしています。

CSRレポート



CSR レポート

当社の取り組みをまとめており、2010年より年1回発行しています。当社ホームページで公開しています。

広報ポスター

2013年度は、当社のさまざまな事業を通じて、お客様や沿線地域に笑顔と元気をお届けしたいという願いを込めて、共通コピーを「こころは、元気日本鉄道。」とした広報ポスターを制作しています。



2013 年度広報ポスター

フェイスブック



facebook（フェイスブック）

観光やイベント・ハイキング、沿線のキャンペーンなど、タイムリーな話題をお知らせします。(2013年2月開始)

http://www.facebook.com/kintetsurailway

ロケーションサービス

当社沿線の認知度とイメージ向上を図るため、近鉄グループのネットワークを最大限に生かしたロケーションサービスを実施しています。映画やテレビ番組、CMなどの撮影において、駅や列車内の撮影だけでなく、近鉄グループのホテルや旅館、テーマパーク、商業施設、バス等を撮影場所としてご提供します。



フジテレビ「ほこ×たて」『近鉄社員vs近鉄マニア』（2013 年 4 月放映）

きんてつ鉄道まつり

地域と連携した社会貢献のため、奈良県香芝市にある五位堂検修車庫で「きんてつ鉄道まつり2012」を、また三重県四日市市にある塩浜検修車庫で「きんてつ鉄道まつり2013in塩浜」を開催し、地域社会とのコミュニケーションに努めています。



きんてつ鉄道まつり



きんてつ鉄道まつり

Welcomingアベノ・天王寺キャンペーン

アベノ・天王寺エリアにおいて、東急不動産、JR西日本、そして地域の皆様とともに「Welcomingアベノ・天王寺キャンペーン」を展開しています。同キャンペーンでは、アベノ・天王寺エリアの「文化歴史」「暮らし」「緑の環境」という3つの価値を再発見するとともに、その魅力を発信することで、エリアのイメージ向上、活性化を目指しています。



アベノ・スプリングフェス

職業体験学習

浜名湖サービスエリアのレストラン等において、中学校の職業体験学習を受け入れています。

自治体との共同宣伝活動

伊勢市、鳥羽市、志摩市、三重県と協力し、地元の特産物や新鮮な海産物を、大阪上本町駅に停車した「うまいもん列車」の車内で販売し、地元をPRしました。

近鉄エリアキャンペーン

地元と連携した観光資源の掘り起こしと地域活性化のため、沿線の特定エリアを集中的にプロモーションする「近鉄エリアキャンペーン」を実施しています。

2012年度は吉野線開業100周年にあわせて「吉野飛鳥近鉄エリアキャンペーン」を実施し、駅に停車させた列車内で地元の特産品を販売する「吉野ラインマルシェ」など多彩なイベントを開催しました。



吉野ラインマルシェ

2013年度は「第62回 神宮式年遷宮」を迎えて注目を集めている伊勢志摩を舞台に、伊勢志摩観光コンベンション機構と共同で「第2回 近鉄エリアキャンペーン　伊勢志摩せんぐう旅博」を開催し、車内で地元によるおもてなしを楽しめる観光列車「つどい」の運行などを行ないます。

大学生との共同商品開発（旅行）

沿線観光地の魅力発信および一層の活性化を図るため、三重大学の学生と協力して、旅行ツアーの企画商品を共同開発しています。「ハロウィン列車」ツアーでは、車内をハロウィン仕様に装飾し、参加者や添乗員が仮装し、衣装コンテストやイベントをお楽しみいただきました。



ハロウィン列車

登美ヶ丘ジョイナスフェスタ

2013年春に誕生した「近鉄学研奈良登美ヶ丘住宅地」(総戸数411戸)において、当社が半世紀以上かけて街づくりを進めてきた「登美ヶ丘エリア」の魅力を感じながら、ご家族でお楽しみいただける情報発信イベント「登美ヶ丘ジョイナスフェスタ」を同年5月に開催しました。



登美ヶ丘ジョイナスフェスタ

近鉄ライナーズのCSR活動

近鉄ラグビー部「近鉄ライナーズ」は、小中学校等でのラグビーの普及を通じて、子供たちの夢をはぐくみ、スポーツの素晴らしさや感動を共有し、スポーツマンシップや正しい生活習慣を身につけるお手伝いをしています。

また、地域社会の一員として、地域イベントへの参加、清掃活動や登下校の見守りなど、地域に愛されるチームになるよう努めています。


ラグビー体験


登下校見守り

情報開示

証券取引所が規定する開示規則に則り、必要な情報開示を適時に実施しています。

また、「決算短信」「近鉄グループ経営計画」などのIR情報や株主優待など、株主・投資家の皆様に必要な情報をホームページに掲載しています。

「近鉄ホームページ」(http://www.kintetsu.co.jp)



事業活動のご報告

株主総会

2013年6月21日に、シェラトン都ホテル大阪において、定時株主総会を開催し、2,216人の株主様のご出席をいただきました。

株主優待制度

当社の株式1,000株以上お持ちの方に、年に2回の優待を実施しています。乗車券や当社沿線の観光施設の割引券などを配布し、沿線の魅力を株主の皆様に紹介する等、優待制度により当社のファンとなる株主を増やし、当社株式の長期保有を促進しています。

(株主優待の内容)

・株数に応じた乗車券
・沿線観光施設割引券
・近鉄百貨店割引券　など

IR説明会の実施

2013年5月17日に、東京でアナリスト・ファンドマネジャーなど114名を対象に、2013年3月期決算や2014年3月期業績予想および経営計画の進捗状況などについて、説明会を開催しました。

Ⅳ. 安全報告

「お客様の安全を最優先します」という方針のもと、より安全・安心な鉄道を目指して、ソフト面・ハード面で様々な取り組みを実施しています。

1. 輸送の安全確保に関する基本的な考え方

「安全最優先の意識」の徹底

企業活動の基本となる「企業行動規範」において、「お客様の安全を最優先します」と定めています。更に全ての事業活動において、役員、社員の一人ひとりが安全に対する意識を高く持ち、それぞれの業務に取り組むため、2006年7月に「安全方針」を制定しました。

安全方針

事業を行ううえで、第一にお客様の安全を考えるという強い意志を改めて示すとともに、無事故を目指して行動すべき項目を定めています。

安全方針

お客様や地域の皆様の安全・安心を確保し、信頼される企業として社会の発展に貢献していきます。

近鉄グループでは、本方針を達成すべく、以下の各項目を念頭に、4つのコア事業（鉄道、不動産、流通、ホテル・レジャー）を中心に各事業において安全性向上に積極的に取り組んでまいります。

1. 事業活動においては、お客様の安全確保を第一に考えます。
2. 安全確保のため、日頃から危険要素の排除に努めます。
3. 常に安全意識を高く持ち、社会の変化に対応しつつ確固とした体制を目指します。
4. 万が一事故・災害が発生した場合には、お客様の救護を最優先に行い、他の機関と連携協力を密にし、被害の拡大防止、適切な情報開示、早期復旧に全力を挙げます。
5. 安全に関する教育、訓練、研修等を適時適切に実施します。

安全目標（鉄道事業本部）　2013年度

○当社責任によるお客様の死傷事故を発生させない
○踏切障害事故などの鉄道運転事故を削減する

安全重点施策（鉄道事業本部）　2013年度

＜予防＞

◆さらなる安全を目指して

①「事故の芽」情報等を活用した事故防止対策の推進
- 運行安全ヒヤリ・ハット、社員の気付き検討チームの充実・強化
- 「事故の芽」情報等の収集・活用の継続

②安全教育の推進
- CAI（コンピュータ支援教育）教材の作成とCAI教室の導入
- 安全に対する取り組みの有効性検証
- 安全管理体制推進に関する教育体系の確立

③安全投資の推進
- 立体交差化工事の推進
  - 奈良線八戸ノ里・瓢箪山間連続立体交差化工事
  - 名古屋線川原町駅付近連続立体交差化工事
  - 名古屋線伏屋駅付近立体交差化工事
- 耐震補強工事の推進
- 総合指令計画の推進
- 新型ATS整備の推進
- 非常通報装置の整備の推進

＜対処＞

◆事故・災害発生に備えて

①異例事態に対応できる能力の向上
- 異例事態対応訓練の継続
- 大規模災害への備えの強化
- 事業継続マネジメント（BCM）の体制構築と運用

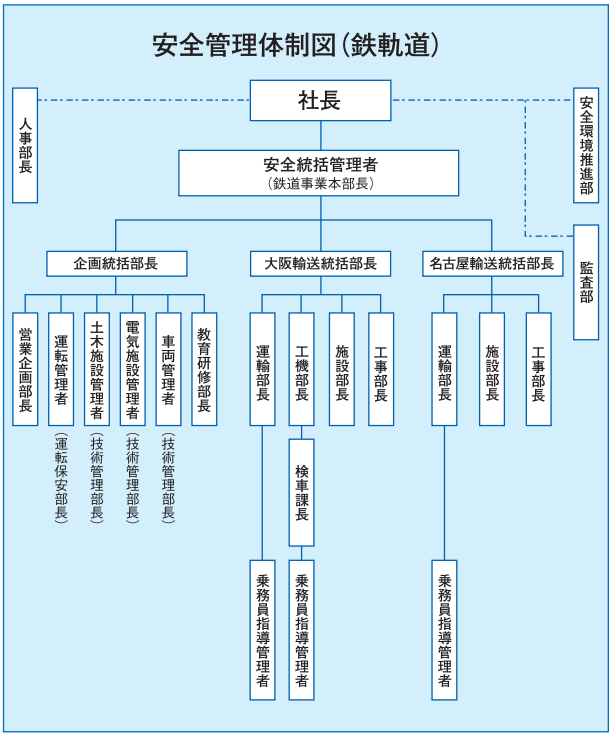


社長による現業職場巡視

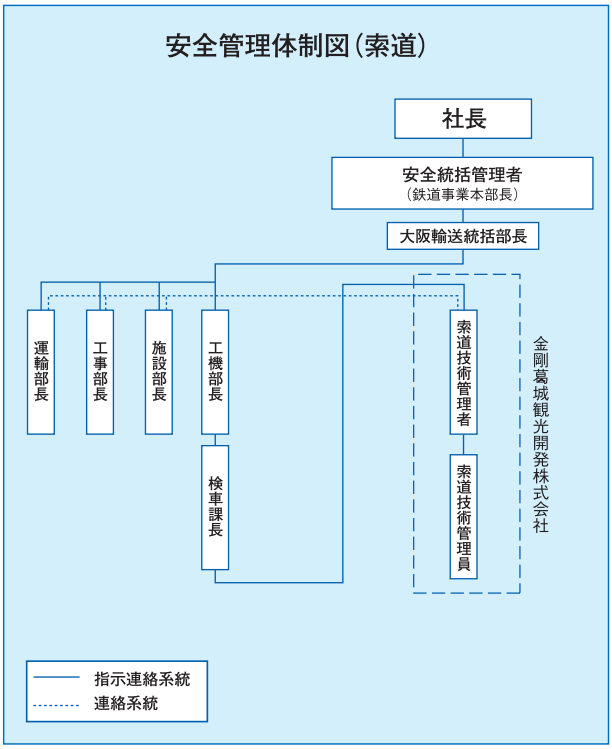
2. 安全管理体制と方法

安全管理体制

2006年10月に鉄道事業法等の一部を改正する法律の施行に伴い、輸送の安全の向上を目的として、安全管理規程を制定しました。同規程では、輸送の安全を確保するための基本方針を示すとともに、鉄軌道および索道の安全を統括する安全統括管理者を定め、鉄軌道・索道事業の各分野における安全の確保に関する責任者の役割、権限などを定めています。



（2013年7月現在）



（2013年7月現在）

安全管理方法

安全を確保するために様々な社内制度を設けており、各分野において安全性向上のための方針の決定や取り組みの審議を行っています。

①安全推進委員会の開催

「安全推進委員会」を開催して、安全方針に基づく「安全重点施策」等の見直しを図っているほか、事故・自然災害などに関する事項を総合的に審議して、有効適切な対策を検討しています。

②現業職場巡視

社長をはじめ、安全統括管理者(鉄道事業本部長)および鉄道部門管理職などは適時、鉄道の安全を支える現場を巡視し、現場の取り組み状況を確認するとともに、輸送の安全の確保などについて意見交換を行い、安全管理の確認を行っています。



安全統括管理者による毎月の現業職場巡視

③事故、「事故の芽」情報の活用

実際に発生した事故の原因調査や再発防止対策の樹立のほか、事故に繋がる恐れのあるインシデントや輸送障害の原因や対策を情報共有するとともに、社員が体験した「運行安全ヒヤリ・ハット」や「社員の気付き」などを集めるしくみを職場に導入し、「事故の芽」の抽出に努めています。さらに、抽出した「事故の芽」情報の具体的な事象を資料化し、教育教材として使用したり、分析結果を設備投資計画に反映することにより、事故の発生防止に努めています。

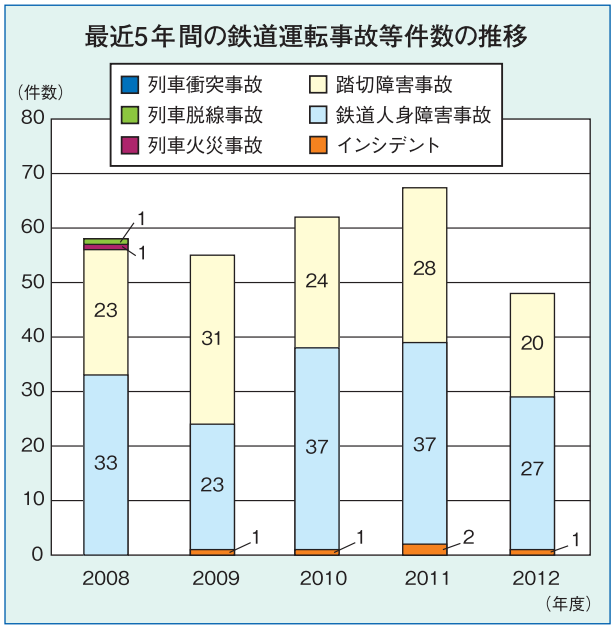
④内部監査の実施

運輸安全マネジメントの一環として、年一回各職場（経営中枢、経営管理部門、事業実施部門、現業職場）の内部監査を実施し継続的な安全性の向上を図っています。

3. 事故・障害に対する報告

2012年度に発生した鉄道および索道の事故等については、鉄道運転事故は47件（踏切障害事故20件、鉄道人身障害事故27件）、輸送障害（鉄道による輸送に障害を生じた事態であって、鉄道運転事故以外のもの）は32件、インシデント（鉄道事故等が発生するおそれのある事態）は1件ありましたが、索道運転事故は発生していません。

鉄道運転事故等



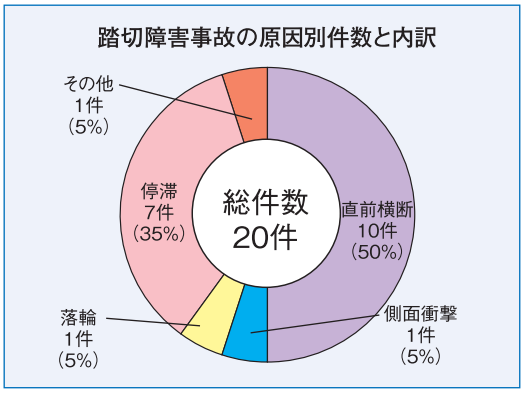
インシデント

2013年3月12日、京都線にて普通列車の運転士が列車種別を急行と錯覚して本来停車すべき山田川駅を通過し、その後間違いに気付き、次の木津川台駅に停車しました。その際、木津川台第2号踏切道の遮断桿が降下しないまま同踏切道を通過していたことが判明しました。対策として、パターン発生機能付ＡＴＳの車上設備整備の前倒し等を実施しました。

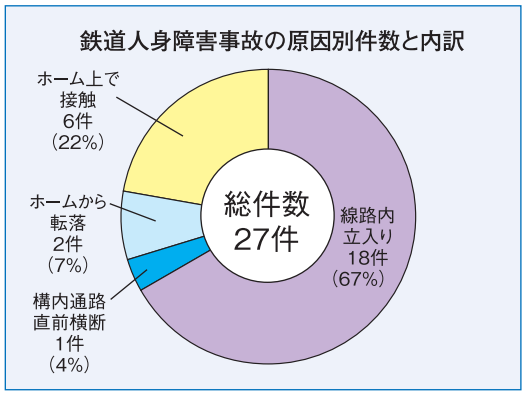
行政指導

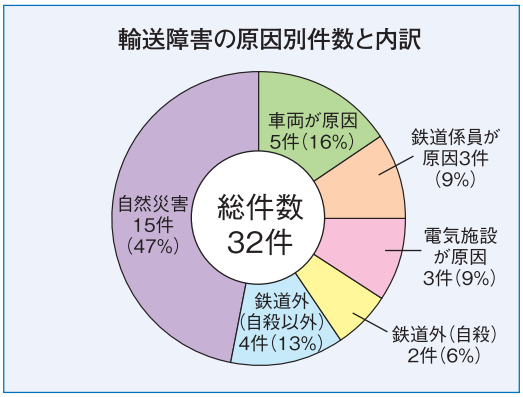
2012年5月、一部の乗務員が名張列車区内で勤務終了後に飲酒していたことが判明し、中部運輸局より警告を受けました。対策として服務規律遵守の指導・教育の徹底、巡回の強化、アルコール検知器のデータ保存機能の強化等を実施しています。

2012年度に発生した踏切障害事故および鉄道人身障害事故の原因別件数を以下に示します。



停滞… 踏切道において、交通渋滞車等の運転操作の誤り、自動車等の故障（落輪、エンストを除く）により、踏切道から進退が不可能になったため列車等と衝突したものをいいます。





索道運転事故等

当社の葛城索道線（ロープウェイ）で最近5年間、索道運転事故等は発生していません。

運輸安全マネジメント社内表彰

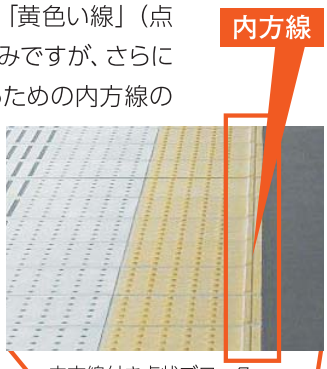
事故の未然防止に顕著な効果が認められる「事故の芽」情報（運行安全ヒヤリ・ハット、社員の気付き）を報告、または「事故の芽」情報に基づく事故防止対策に尽力し、輸送の安全確保に顕著な貢献があったと認められる社員または職場に対して表彰を実施し、輸送の安全の確保に関する報告内容の充実を図り、お客様の安全最優先の原則を社内に醸成しています。

駅における安全対策

①ホームからの転落防止対策

内方線付き点状ブロック

ホームの縁端を警告する「黄色い線」（点状ブロック）は全駅整備済みですが、さらにホームの内外方を判別するための内方線の整備を進めています。2012年度末までに61駅を整備しました。今後、利用者1万人以上の駅を中心に順次整備していく予定です。



内方線付き点状ブロック

足下灯

電車とホームの間が大きく空いている箇所では、足下を照らして、お客様に注意していただくよう蛍光灯やLED灯を設置しています。



足下灯（LED灯）

車両連結部の転落防止用外幌（そとほろ）等

お客様が、ホームと車両連結部の隙間から転落されるのを防止するため、車両連結部分へ幌の取り付けを進めており、2013年度末までに全車取り付けが完了する予定です。（一部の廃車予定車両を除く）

また、一部の車両では車両連結部において案内音声を流し、注意喚起を図っています。


転落防止用外幌

終端駅における転落防止柵

終端駅においてお客様の転落を防止するための固定柵の整備を進めています。2012年度末までに4駅を整備しました。


転落防止柵

②ホーム下転落時における事故防止対策

非常通報装置

ホームにおいて、お客様が線路へ転落されるなど、不測の事態が発生した場合、ホームに設置した非常通報ボタンを押して乗務員に異常を知らせるものです。列車との接触事故を少なくする目的で、2012年度末までに154駅に設置しました。今後も順次設置を進める予定です。


非常通報装置



非常通報ボタン

ホームステップ・ホーム下の待避スペース

ホームにおいて、お客様が線路に転落された場合の安全対策として、ホーム下の待避スペースの確保、あるいはホームに昇るステップの設置を2012年度末までに116駅に実施しました。


ホームステップ


ホーム下待避スペース

転落検知マット

お客様がホームから転落された場合に、ホーム下に敷設したマットで感知し、乗務員に異常を知らせる装置で、2012年度末までに3駅に設置しました。


転落検知マット

テロ対策

防犯カメラの設置

防犯対策として、主要駅に防犯カメラを設置し、録画しています。


防犯カメラ

保守・点検における安全対策

①車両の点検･整備

安全に列車を運行するため、車両は日常点検のほか、定期的に当社直営の五位堂検修車庫および塩浜検修車庫で、分解・点検・整備を実施しています。



五位堂検修車庫

◎五位堂検修車庫での検査概要

入場検査



車庫に入場し、まず検査します

車体上げ



車両を車体と台車に分けます

車体清掃



シート清掃

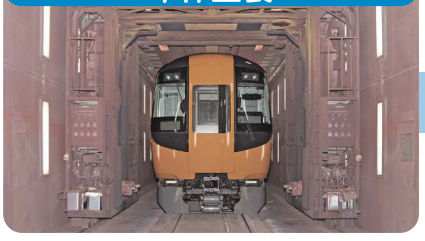


機械で車体とシートを清掃します

車体と台車のセット

車体と台車を合体させます

車体塗装



車体を機械で塗装します

出場検査



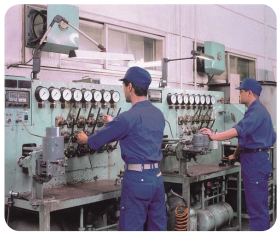
検査合格で、再びお客様のもとへ向かいます

部品の分解・点検・整備


制御装置の試験


パンタグラフの整備


車軸の探傷


空気ブレーキ装置の試験


車輪の削正


主電動機の整備


車輪の圧入


台車の整備

②線路の点検・整備

快適な乗り心地を維持するために、線路のゆがみを適宜補修しています。周辺にお住まいの方のご理解ご協力のもと、安全快適な線路を実現しています。



点検作業の様子

レール探傷車

レール探傷車により、定期的に目では見えないレール内部の検査をしています。



レール探傷車

高速軌道検測車

高速軌道検測車により、定期的に線路のゆがみを検査しています。



高速軌道検測車

③電気設備の点検・整備

電車は、変電所から架線を通った電気が供給されなければ動くことができません。また、信号機や踏切が正常に動作しなければ、電車は安全な走行をすることができません。そこで、変電所や架線、信号機や踏切の点検を行い、悪いところがあれば整備を実施し、安全な運行ができるよう設備を維持しています。


電車線保守点検


電車線保守点検

電気検測車「はかるくん」

安全に列車を運行するため、ATS地上子の検査や、電車線の磨耗の状況等を電気検測車「はかるくん」によって測定しています。はかるくんには、架線検測装置、ATS地上子測定装置、列車無線電界強度測定装置等が積載されており、昼間に高速で走行しながらの測定が可能であり、作業の大幅な効率化を実現しています。



電気検測車

踏切道における安全対策

関係自治体と協力して立体交差化や踏切道の統廃合等によって、踏切の解消に努めています。その結果、1970年には1953箇所あった踏切道は、2012年度末では1369箇所までに減少しています。また、踏切道内での異常を知らせる踏切支障報知装置の設置もあわせて進めています。

踏切道解消の推進

現在、立体交差化工事施工中の区間は、奈良線八戸ノ里・瓢箪山間、名古屋線川原町駅付近と名古屋線伏屋駅付近であり、完成後に廃止される踏切道はそれぞれ9箇所、5箇所、3箇所です。



奈良線八戸ノ里・瓢箪山間連続立体交差化工事（若江岩田～河内花園間）

踏切支障報知装置の設置

踏切事故を防止するため、踏切道内に侵入した自動車などを列車に報知するために、踏切障害物検知装置や押ボタン式踏切支障報知装置を設置して運転保安度の向上を図っています。



踏切障害物検知装置



押ボタン式踏切支障報知装置
非常ボタン



トランスポンダ式 ATS 地上子

列車運行における安全対策

ATS（自動列車停止装置）・ ATC（自動列車制御装置）の導入

運転保安度の向上を図るため、当社独自のATSをけいはんな線を除く全線に、ATCを大阪市営地下鉄との相互直通運転に合わせけいはんな線に使用しています。

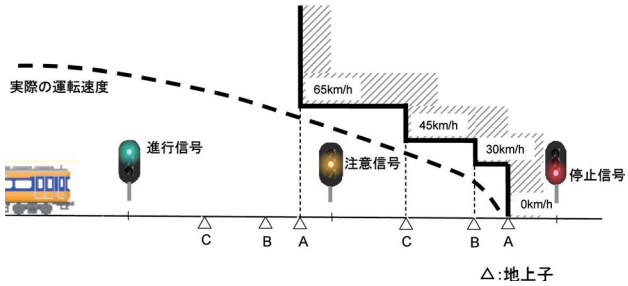
ATSとは、軌道間に設置した地上子から車上装置に速度制限情報を送信して、列車の速度が照査速度を超えた場合に、自動的に列車を停止させる装置です。

ATCとは、走行レールに連続的に制限速度の情報を流して車上装置で受け、速度超過の場合に列車を自動的に減速、停止させる装置です。

信号機と連動するATS

地上子から信号機の現示に応じた速度制限情報を車上装置に送信し、連続的に列車の速度を監視します。列車の速度が照査速度を超えると直ちに非常制動が自動的に動作します。

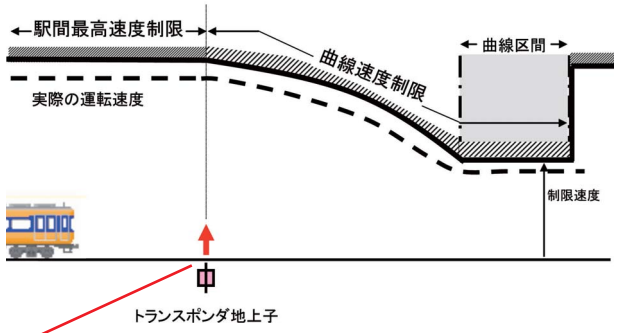
信号現示と制限速度の関係は下図のとおりです。



線路条件（曲線、分岐等）に対するATS

曲線および分岐等の速度制限区間に進入しようとする列車に、地上子から速度制限情報を車上装置に送信し、列車の速度を監視します。列車の速度が照査速度を超えると直ちに非常制動が自動的に動作し、速度制限区間に進入する時には所定の速度以下に列車を減速させます。

曲線区間における速度制限の例を下図に示します。



その他用途のATS

上記のATSのほか、上り勾配の駅に停車する列車の後退を防ぐもの、踏切に近接した駅や終端駅で列車の過走を防止するもの、待避・入換線のある駅などで誤出発を防止するものなど、様々なATSを設置しています。

列車運行管理システム

運転指令業務の近代化と信号扱いの自動化を目的とした列車運行管理システムを導入し、現在は、ほとんどの線区で運用しています。このシステムでは、列車運行状況の監視・ダイヤ管理・運転整理のほか、各駅の進路制御・案内制御などを行っています。このほか、生駒線、田原本線、内部線、八王子線においては、PTC（プログラム式列車運行制御装置）方式やARC（自動進路設定装置）方式により運行管理を行っています。



名古屋運転指令室

運転士支援システム

GPS技術を利用して列車の位置特定を行い、その位置情報により、音声や発光表示等の方法で運転士に対し運転支援（注意喚起）を行う運転士支援システムを、近鉄車両エンジニアリング㈱と共同開発しました。

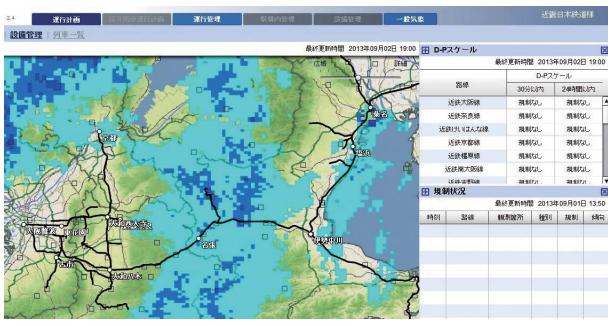


運転士支援システム（GPS Train Navi）

降雨対策

雨量システム

法面災害発生のおそれがある区間では、降雨量に応じた列車の運転規制を行っています。このため、沿線各地に雨量計を設置し、降雨量を計測して規制値を超えた時には、アラームにより係員に知らせるシステムを導入しています。なお、2013年6月には、局所的な大雨に対応するため、降雨の観測体制の強化や運転規制の見直しを行いました。



雨量システム

強風対策

風向風速計

強風時に列車の運行規制を行う際の参考として、風向および風速を計測する装置で、発信器は、駅、橋梁、高架区間などの強風区間に設置しています。

風速が毎秒25メートル（一部線区では15メートル）程度となった場合は列車の出発を見合せ、通過列車は停止させる処置をとります。



風向風速監視システム画面



発信器

火災対策

列車に火災が発生した場合

列車乗務員は、走行中の列車に火災が発生した時は、直ちにパンタグラフを降下し地形を考慮（トンネル内、橋の上等は避ける）して停止し、お客様を火災発生車両以外の安全な車両に移動していただくなどの安全を図り、速やかに消火にあたります。



阪神電鉄との合同訓練（阪神桜川駅）

地下駅における火災対策

「地下鉄道の火災対策の基準」に対しては、対象となる5駅について、自家用発電機、階段防火区画等の整備を実施しており、2014年度に完了する予定です。



階段防火区画のシャッターと耐火スクリーン（白色）を下ろしている途中



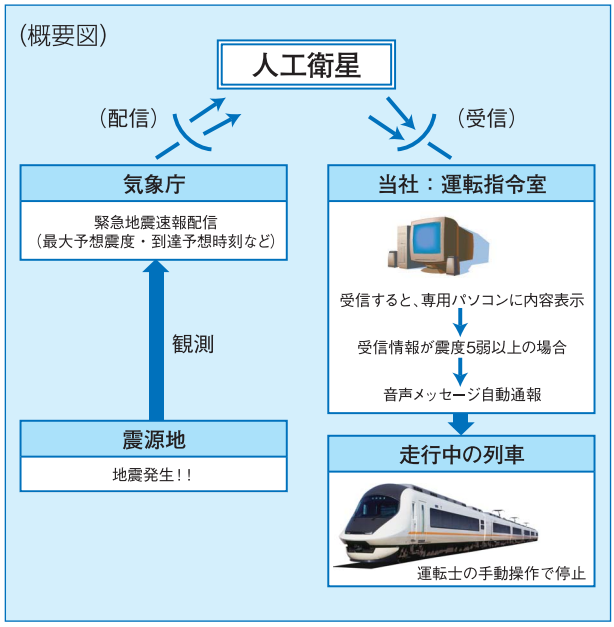
シャッターと耐火スクリーンを下ろした状態

地震・津波対策

緊急地震速報システム

地震が発生した場合、気象庁の地震観測網から得られた地震発生情報を即座に走行中の列車に伝達する「緊急地震速報システム」を導入しています。

このシステムは、地震の大きな揺れが到達する数秒～数十秒前に気象庁より配信される緊急地震速報データ（大きな揺れが到達するまでの時間や規模等の情報）を運転指令室において受信し、走行中の列車に対して音声メッセージを自動的に通報することにより、被害の最小化を図るものです。



地震計システム

地震発生時、走行中の列車に対して的確な指示を行うため、鉄道沿線の13箇所に設置した地震計を用いて上本町、東生駒、天王寺、名古屋の各運転指令室で必要とする箇所の震度情報を収集し、地震警報表示盤で表示および警報を鳴動させます。この情報をもとに、震度5弱以上の地震が発生したときは自動的に指令無線により運転指令室から走行中の列車に対して停止指令を通報できるよう地震情報通報装置も設置しています。なお、気象庁の震度発表後はそれにより運転規制を行います。



地震警報表示盤

東海地震、東南海・南海地震に備えて

大規模地震災害を含む異例事態が発生した場合の全社体制を定め、お客様の救護、被災箇所の早期復旧と事業継続を図ります。

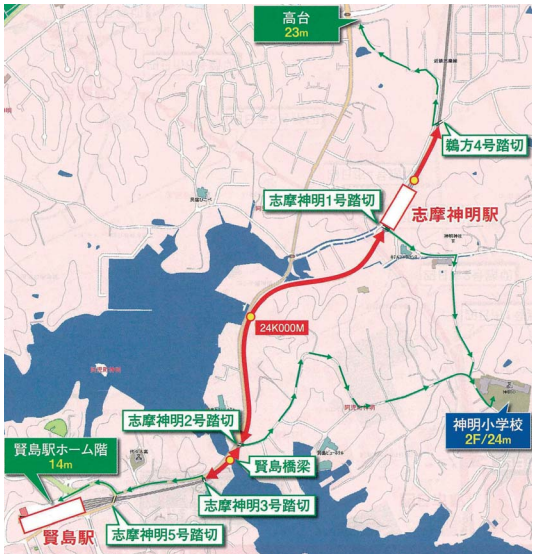
特に、東海、東南海・南海地震に対しては、大規模地震対策特別措置法に対応し、「東海地震に係る地震防災応急計画」および「東南海・南海地震防災対策計画」を策定しています。これらに基づき全社員が連携して対応する手順を定めたマニュアルを整備し、適宜、教育・訓練を実施することにより大規模地震に備えています。

東海地区における津波対策

東日本大震災を受け、津波の想定を見直し、三重県・愛知県内の路線では避難場所を再検証しました。

三重県・愛知県内の路線では、津波が襲来した場合、お客様と当社係員を津波被害から守るため、自治体が作成した津波浸水予測図等を参考に、「津波発生時の緊急避難場所地図」を作成し乗務員等へ配布しています。

この地図には、公共避難所および当社が定めた緊急避難場所、それぞれの避難場所の標高、避難場所への経路を記載しています。また、お客様の避難誘導を円滑に行えるよう、線路内に避難方向を示す、緊急避難誘導標（指示標・終端標など）を設置しました。



津波発生時の緊急避難場所地図（賢島駅周辺）



終端標



指示標



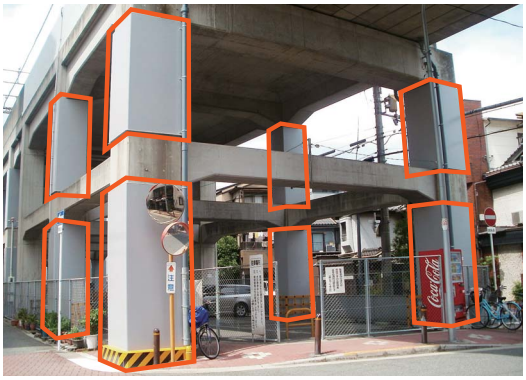
指示標

関西地区における津波対策

地下線のうち大阪難波駅～近鉄日本橋駅付近までが浸水することを想定して、列車や駅からの避難計画を策定しています。本計画では、お客様を地上や地下で接続するビルに誘導します。

高架橋および駅舎の安全性向上

国土交通省の通達に基づき、高架橋の柱に鋼板を巻くなど、継続的に耐震補強工事を実施しているほか、計画的に駅舎等の耐震補強工事も実施しています。



高架橋　耐震補強工事

避難はしごの車両への搭載

事故・トラブル等により駅間で長時間停車した場合に、お客様に安全に降車していただくために避難はしごの車両への搭載を進めています。(一部線区を除く)



車内搭載の様子



組み立て後の避難はしご

精神訓話および事故事例研究

新入社員教育の一環として精神訓話および事故事例研究を実施し、人命を預かる責任ある仕事であることや、些細なミスが大きな事故につながることを認識し、責任感や当事者意識を醸成しています。



新入社員研修（東青山駅構内列車脱線事故現場）



JR東海・JR西日本との合同訓練（京都駅）

事故・災害に対する緊急時対応訓練

異例事態対応訓練、事故・災害総合訓練、防災訓練の3種類の訓練を毎年実施しています。

異例事態対応訓練

大規模災害発生の際、全社体制で情報を的確かつ迅速に伝達し、適切な初動体制を構築することを目的としています。



異例事態対応訓練（本社）



異例事態対応訓練（現地対策本部）

事故・災害総合訓練

地元の警察署、消防署と協力して、事故発生時のお客様救出等の訓練を行っています。



事故災害復旧訓練（白塚駅）

防災訓練

駅などにおいて、防災訓練を実施しています。



阪神電鉄との合同訓練（大阪難波駅～阪神桜川駅間）

社員教育

運転士の養成

国土交通省指定の「動力車操縦者養成所」において、約9ヵ月におよぶ学科講習および技能講習を行い、運転士の養成を行っています。各講習後は、試験を実施し、合格者を決定しますが、運転士となった後も定期的に「知識」、「技能」、「適性」の確認を行い、運転士としての資質の管理を行っています。

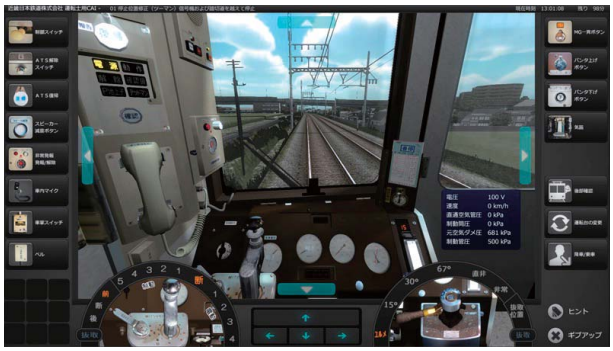
運転士養成学科講習の教材として模擬車両の運転機器操作を体感するシミュレータ装置を西大寺教習所および白塚教習所に導入しています。この装置は、種々の異例時の効果的な模擬体験が可能で、異例時対処能力向上に役立っています。



シミュレータ装置運転台

CAI（コンピュータ支援教育）教材

運転士が実車では体験することが難しいトラブルなどをパソコン上に再現させ、模擬的に体験し、正しい判断、正しい行動がとれるよう知識・技能の向上を図る教材です。


CAI教材　画面写真

技術係員対象の夏期講習会の開催

毎年8月から9月にかけて、保線、電気、車両の各係員に対して、安全運行を確保するための知識・技能の向上と、各規程の変更や新システム等を含めた教育を行っています。


技術係員対象の夏期講習会

安全環境推進講演会の開催

毎年、当社の役員、管理・監督職とグループ会社の管理職あわせて約300名を対象に、安全と環境に関する講演会を開催しています。2013年2月には外部講師をお招きし、「安全・安心な鉄道輸送サービスと気象情報の利活用」と題してご講演をしていただきました。安全意識高揚の環境づくりと全社員のスキルアップを図るため、今後も講演会を実施する予定です。


安全環境推進講演会

安全への投資

安全投資実績と計画

鉄道安全関連設備の投資として2012年度には151億円を投入し、高架化、踏切保安設備、変電所機器等の更新改良工事、軌道整備、防災対策等様々な安全対策を行っています。2013年度も安全関連設備の投資として131億円を予定しています。

	鉄道事業設備投資	うち、安全関連設備投資
2012年度実績	195億円	151億円
2013年度計画	190億円	131億円

事業継続

BCP（事業継続計画）

異例事態に対応できる能力の向上を目指し、BCPが2012年度に完成しました。異例事態発生から、通常業務に復旧するまでに行う業務の優先順位と手順等を、あらかじめ整理し、迅速な事業復旧を目指すものです。当社はお客様の安全確保を第一とし、さらに公共的使命から鉄道事業の復旧を最優先に定めています。

DBJ　BCM格付の最高ランク取得

日本政策投資銀行（DBJ）が実施する、BCM（事業継続管理）格付において、「事業継続への取り組みが特に優れている」と、最高ランクを取得しました。BCM格付とは日本政策投資銀行が企業の防災・事業継続の取り組みを評点化し、優れた企業を選定し、その評価に応じて融資条件を設定するものです。最高ランクを取得したことにより、安全投資の一部について、一般金利よりも安く資金調達が可能となりました。

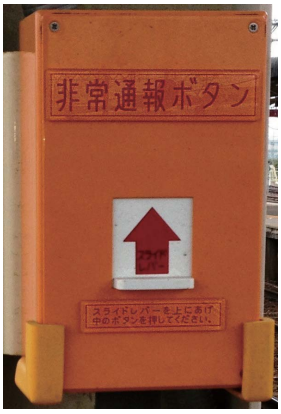
DBJ BCM格付 2012

当社は、平成25年3月日本政策投資銀行（DBJ）より DBJ BCM 格付融資を受け、格付結果は「事業継続に対する取り組みが特に優れている」と評価されました。

5. お客様・沿線の皆様へのお願い

ホームでのお願い

①主要駅には、各所に非常通報ボタンを設置しています。もし、ホームから転落したお客様を認めるなど、何らかの異常を発見したときは、直ちに非常通報ボタンを押してください。
②線路の中にものを落としたときは、駅係員にお知らせください。絶対に線路内に立ち入らないでください。
③ホームを歩くときは、黄色い線の内側を歩行してください。



非常通報ボタン



ポスター

車内でのお願い

①電車は、やむをえず急停車することがあります。座席にお座りになるか、手すり・つり革におつかまりください。
②各車両には車内通報装置を設置しています。もし、車内で異常を発見したときは、車内通報押ボタンを押すと乗務員に異常を知らせます。また一部の車両では、乗務員と通話する機能がついた通報装置を取付けています。
③ベビーカーをご利用のお客様は、混雑時は他のお客様へのご配慮をお願いいたします。また、走行中はベビーカーが突然動き出したり転倒する恐れがありますので、ストッパーをかけ手を離さないようご注意願います。



車内通報装置



車内通報装置（通話機能付）

踏切でのお願い

①警報機が鳴り始めたら、踏切道内に入らないでください。
②踏切道内において、車などが停止している等異常を発見したときは、警報機付近にある非常ボタンを強く押してください。異常を列車に知らせるシステムになっています。



押ボタン式踏切支障報知装置

ロープウェイでのお願い

ロープウェイには、緊急の場合や係員に連絡したい場合に使用する無線機を設置しています。緊急の場合は、非常ボタンを押すと係員に異常を知らせることができ、また、通話ボタンを押すと係員と通話ができます。



非常発報装置

V. 環境報告

「環境にやさしい」企業を目指し、毎年度環境目標を定め、省エネルギー・省CO_2、省資源、リサイクルなど様々な取り組みを実施しています。

1. 環境理念および環境方針等

(1)環境理念および環境方針

環境対策の基礎として1997年に「環境問題に対する経営理念」を定め、環境保全活動の推進を図ってきました。

2000年9月に「近畿日本鉄道　環境方針」を定め、環境問題に対する当社の方針を明確にしました。

環境方針

理　念

地球環境の保護は人類が協同して取り組まなければならない最大課題の一つであるという認識から、さらなる省エネルギー、省資源を図り、法律・条例等の規制基準を遵守するにとどまらず、自主的、積極的に環境保全に取り組み、今後も人類が地球環境と共存していけるように努める。

方　針

環境に優しい鉄道の利用を促進することが、沿線の美しい山や川、青い海の保護につながることを念頭に置き、鉄道の施設整備およびサービス向上に努めるとともに、以下の方針に基づき当社の事業活動に関わる各分野において環境保全活動を推進します。

1. 当社の事業活動に関わる環境への影響を常に認識し、環境汚染の予防に努めるとともに、環境保全活動の継続的改善を図ります。
2. 当社の事業活動に関わる環境関連の法規・規制・協定等を遵守するのはもちろん、必要に応じて自主基準を策定して環境保全に努めます。
3. 省エネルギー、省資源、リサイクル、廃棄物の削減等への取り組みを通じ、環境への負荷軽減に努めます。
4. 環境教育を通じて、社員の意識向上を図り、自ら責任をもって環境保全活動を遂行できるよう、啓発と支援を行います。
5. 地域社会との関わりを大切にし、環境保全活動への取り組みを通じ広く社会に貢献します。
6. この環境方針は社員へ周知するとともに、一般に公表します。

(2)グリーン調達・グリーン購入

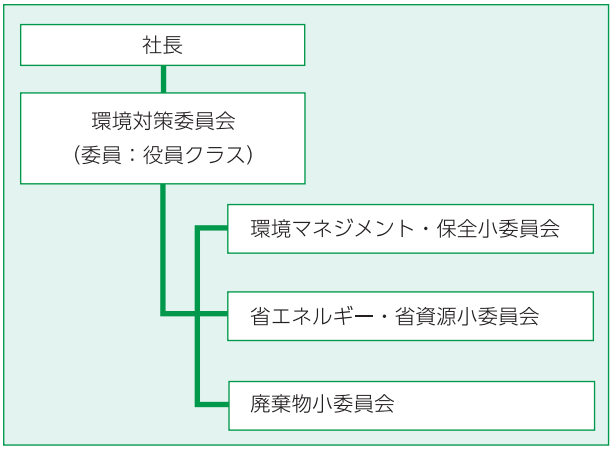
「地球環境の保護・資源保護に取り組むため、環境にやさしい資材を優先的に購入する」ことを、資材部の「購買事務執務要領」に定め、グリーン調達に取り組んでいます。オフィス用品については、「グリーン購入ガイドライン」を定め、グリーン購入をすすめています。

(3)推進体制

環境対策委員会

環境問題に組織的に取り組むため、役員クラスをメンバーとした「環境対策委員会」を設置し、その下に3つの小委員会を設けています。

委員会および各小委員会では、それぞれテーマを掲げ具体的な目標をもって取り組んでいます。



小委員会の主な役割

環境マネジメント・保全小委員会

各種施策、計画、啓蒙活動の実施により、環境活動の取組みを推進するとともに、騒音、振動、水質汚濁、大気汚染など従来型公害に関する対策について推進を図ります。

省エネルギー・省資源小委員会

電力ほかエネルギー消費量の削減やOA用紙使用枚数の削減、再生紙・エコマーク商品等の利用の推進、省エネ・省資源運動の推進を図ります。

廃棄物小委員会

駅、列車内およびオフィス等で発生する廃棄物および建設工事等で発生する産業廃棄物の減量化、再資源化率の向上、適正処理について推進を図ります。

環境指導員

各部・各事業統括部等において環境活動を推進するリーダーとなる「環境指導員」33名を任命しています。(2013年7月末日現在)

近鉄グループ環境情報交換会

近鉄グループ一体となった環境マネジメントを推進するために、当社および近鉄グループ会社を対象に、年2回程度「近鉄グループ環境情報交換会」を開催しています。2013年度のグループの取り組みの一環として「近鉄グループ環境方針」の策定および、エネルギー使用量の把握を予定しています。

2. 外部認証・表彰等

ISO14001のとりくみ

当社の車両を定期的に分解して、検査、修繕や改造を行う五位堂検修車庫（奈良県香芝市）では、ISO（国際標準化機構）規格に準拠した環境マネジメントシステム（ISO14001）を導入し、環境負荷の継続的改善に努めています。

2012年度はエネルギー消費を減らすため、日差しを遮り、室温も下げる効果がある「緑のカーテン」として、ゴーヤを育てました。



（2012.5.11 撮影）



（2012.9.24 撮影）

エネルギー管理優良事業者　中部経済産業局長表彰

「ホテル近鉄アクアヴィラ伊勢志摩」が、エネルギー管理優良事業者として、「平成24年度省エネルギー月間　東海地区　中部経済産業局長表彰」を受賞しました。省エネルギーに関し功績が極めて顕著な事業者等が表彰されるもので、東海地区において、今回は3事業者が受賞しました。中部経済産業局長表彰は、東海地区における最高ランクの表彰です。



表彰式

CDPへ回答

CDP（カーボン・ディスクロージャー・プロジェクト）とは、世界の機関投資家が連携し、世界の企業に対し気候変動への戦略や温室効果ガスの排出量の公表を求める活動で、日本では時価総額上位500社を対象としています。当社は2010年度より毎年回答しています。

当社のCDPスコア

	2010年度	2011年度	2012年度
情報公開度スコア	60	80	80
パフォーマンススコア	―	C	C

DBJ環境格付の最高ランク取得

2013年3月、（株）日本政策投資銀行（DBJ）の「環境格付融資制度」の審査において、環境に配慮した企業経営が評価され、「環境への配慮に対する取組みが特に先進的」という認定を得ました。環境への配慮に対する取組み度合に応じて金利が優遇されて融資を受けることができる制度で、最高ランクを獲得しました。

また、同時に「DBJ　BCM（事業継続管理）格付」（P.35参照）においても最高ランクを取得し、鉄道会社初となる最高ランクを同時取得しました。

DBJ 環境格付 2012

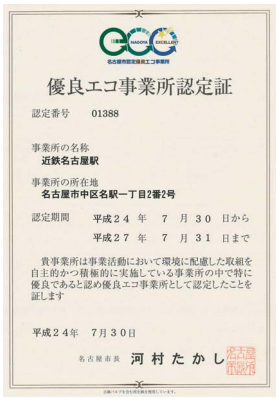
当社は、平成25年3月日本政策投資銀行（DBJ）より環境格付融資を受け、格付結果は「環境への配慮に対する取り組みが特に先進的」と評価されました。



左：（株）日本政策投資銀行　小柳常務
右：当社　工藤執行役員

優良エコ事業所

名古屋市が定める「優良エコ事業所」に、2012年7月、鉄道会社第1号として近鉄名古屋駅が認定されました。駅におけるエネルギー使用量の削減等、環境への取り組みが高く評価されたものです。



優良エコ事業所認定証

3. 環境負荷低減の目標・実績

(1)環境目標と実績

評価基準　★★★……目標達成
★★……目標未達成だが理由があるもの
★……目標未達成

2012年度　環境目標と実績・評価

2012年度 環境目標	2012年度 実績	評価
1. 鉄道電力量の抑制 運転用電力量を前年度比4%削減する。 本年度の車両走行キロは前年度比4.0%減と予想され、天候に左右される要素はあるが、4%削減を目標とする。 ※節電分は含まず。	運転用電力量　3.1%減　643,727千kWh 車両走行キロは4.0%減であったが、目標は達成できなかった。	★
2. 省エネルギー、省資源運動の推進 鉄道以外の事業における電力使用量を前年度比0.5%削減する。	鉄道以外の事業における電力使用量 前年度比1.4%減　161,095千kWh	★★★
OA用紙の使用枚数1%削減	OA用紙使用枚数　3,786万枚　6.8%の増加	★
本社内複合機　複数ページ割付率6% 両面率25%	本社内複合機実績　複数ページ割付率6.1% 両面率21.7%	★★★ ★
水の使用量は前年度より減らす。	水の使用量　3%の減　2,447千㎥	★★★
エコオフィス運動の推進	夏冬に実施（エコスタイル・節電等）	★★★
3. 廃棄物の適正処理 一般廃棄物リサイクル率50% 産業廃棄物(特定建設資材廃棄物)リサイクル率97%	一般廃棄物リサイクル率59.5% 産業廃棄物(特定建設資材廃棄物)リサイクル率97%	★★★ ★★★
4. 環境リスク管理 フロン、特別管理産業廃棄物の適正管理	事故件数0件	★★★
5. グリーン購入の推進 グリーン購入比率50%の維持 OA用紙のグリーン購入比率100%	グリーン購入比率49.3% OA用紙のグリーン購入比率100%	★ ★★★
6. 環境の向上、社外への環境情報開示の推進 「CSRレポート2012」を発行	「CSRレポート2012」を発行	★★★

2013年度　環境目標

2013年度 目標
1. 省エネルギー、省資源、省CO_2の推進 運転用電力量を前年度比0.4%削減する。 駅施設等での節電につとめる。 鉄道の利用促進を図る。 その他事業におけるエネルギー使用原単位を前年度比1%削減する。 LED照明の導入促進を図る。 OA用紙使用枚数を前年度より減らす。 本社内複合機実績　複数ページ割付率6%　両面率25% 節水器具の導入推進 エコオフィス運動の推進
2. 廃棄物の適正処理 一般廃棄物リサイクル率60% 産業廃棄物(特定建設資材廃棄物)リサイクル率97% レジ袋の削減
3. 環境リスク管理 フロン、特別管理産業廃棄物の適正管理
4. グリーン購入の推進 グリーン購入比率50% OA用紙のグリーン購入比率100%
5. 環境の向上、社外への環境情報開示の推進 「CSRレポート2013」を発行 グループを含めた環境マネジメントの推進

(2)2012年度　環境負荷データ

エネルギー使用量およびCO_2排出量

鉄道用電力

種別	使用量	前年度比
運転用電力量	643,727千kWh	-3.1%
付帯用電力量	120,390千kWh	3.8%
計	764,117千kWh	-2.0%
計（熱量）	7,457,782 GJ	-2.0%
計(CO_2排出量)	361,032 t-CO_2	26.6%

その他エネルギー

種別	使用量	前年度比
電力量	161,575千kWh	-9.2%
都市ガス	12,155千㎥	-1.3%
プロパンガス	668千kg	1.7%
白灯油	422千リットル	-0.7%
重油	2,251千リットル	4.6%
ガソリン	14千リットル	1.2%
軽油	28千リットル	-25.9%
冷水	4,374 GJ	-6.8%
計（熱量）	2,302,802 GJ	-6.7%
計(CO_2排出量)	115,050 t-CO_2	23.4%

※原子力発電の停止に伴い火力発電が増加したため、電力使用量は減ったものの、CO_2の排出係数が大幅に増加しています。

資源投入量

種別	使用量	前年度比
OA用紙	3,786 万枚	6.8%
水	2,447 千㎥	-3.0%

※2011年度実績を2,523千㎥に修正しています。

廃棄物排出量

一般廃棄物

	排出量	前年度比
一般廃棄物	9,446 t	-9.1%

※2011年度実績を10,397tに修正しています。

産業廃棄物

	排出量	前年度比
燃えがら	911 t	——
汚でい	8,158 t	-48.6%
廃油	161 t	22.0%
廃酸	6 t	200.0%
廃アルカリ	14 t	600.0%
廃プラスチック	868 t	-15.4%
紙くず	136 t	-2.2%
木くず	4,263 t	142.4%
繊維くず	5 t	66.7%
金属くず	9,188 t	17.3%
ガラス及び陶器くず	2,492 t	527.7%
建設廃材	34,131 t	-60.6%
合計	60,333 t	-47.0%

特別管理産業廃棄物

	排出量
廃石綿	3,550㎡
廃PCB機器 変圧器	6台
コンデンサ	78台

近鉄グループの環境負荷データ

エネルギー使用量

種別	使用量
電力量	1,146,599千kWh
都市ガス	18,257千㎥
プロパンガス	1,311千kg
白灯油	709千リットル
重油	5,474千リットル
ガソリン	1,508千リットル
軽油	23,053千リットル
冷水	19,408GJ
計（熱量）	13,347,015GJ

資源投入量

種別	使用量
OA 用紙	19,101万枚
水	4,148千㎥

※近鉄グループの主な57社を対象とし、エネルギー使用量は54社、OA用紙は46社、水は36社の合計を記載しています。（当社を含む）

(3)2012年度　環境会計

環境保全コスト

（単位：千円）

分類・取り組み	2012年度		
	投資	費用	計
事業内エリアコスト	752,913	2,431,623	3,184,536
①公害防止コスト	523,880	803,409	1,327,289
②地球環境保全コスト	134,171	298,151	432,322
③資源循環コスト	94,862	1,330,064	1,424,926
上・下流コスト		28,217	28,217
管理活動コスト		24,357	24,357
研究開発コスト			0
社会活動コスト	54,407	8,413	62,820
環境損傷コスト			0
合計	1,560,233	4,924,234	6,484,467

環境保全に伴う経済効果

（単位：千円）

	2012 年度	備考
リサイクルにより得られた収入額	188,989	有価物（鉄屑、非鉄金属屑、廃品器具、古まくら木等）の売却
省エネルギーによる費用削減	576,136	
リサイクルに伴う廃棄物処理費用の削減	0	
合計	765,125	

主な省エネルギー対策と効果

主な省エネルギー対策について、年間予想削減効果を算出しています。

鉄道の取り組み

項目	2012 年度		備考
	削減量	費用削減（千円）	
回生電力吸収装置	191 万kWh	21,010	けいはんな線・大阪線
ヒートパイプ式整流器更新	539万kWh	59,290	更新済27台
き電線上下一括化	179万kWh	19,690	南大阪線
力率改善用コンデンサ	252万kWh	27,720	29変電所および駅
照明のインバータ化等	296万kWh	32,560	累計19,282台
地下駅空調インバータ化	324万kWh	35,640	大阪難波駅等6駅
ＬＥＤ照明	33万kWh	3,630	駅舎、ホーム累計2,182台
ロープ式エレベータ	21.8万kWh	2,398	49駅93基
エスカレーターの自動運転	35万kWh	3,850	16駅35基
エスカレーターの速度自動制御	8.5万kWh	935	3駅17基
駅待合室扉の自動化等	1.9万 kWh	209	151駅
冷却水利用システム	2.15 万㎥	5,633	近鉄名古屋駅

ホテル等の取り組み

項目	2012 年度		備考
	削減量	費用削減（千円）	
ビルマネジメントシステム	259万 kWh	33,670	シェラトン都ホテル大阪等3ホテル
コジェネレーション	119万 kWh	15,470	ホテル近鉄ユニバーサルシティ
太陽光発電システム	11万 kWh	1,430	シェラトン都ホテル大阪
高効率ターボ冷凍機	45万 N㎥	29,250	沖縄都ホテル
高効率蒸気吸収式冷凍機	42万 N㎥	27,300	シェラトン都ホテル大阪
高効率冷温水器	15万 N㎥	9,750	新・都ホテル
高効率冷却塔	5万 kWh	650	ホテル近鉄アクアヴィラ伊勢志摩
LED 照明	569万 kWh	73,970	都ホテル16ホテル、橿原観光ホテル
照明インバータ化	0.5万 kWh	65	百楽荘
高効率エアコン	5.8万 kWh	754	ホテル近鉄ユニバーサルシティ
地下水の有効利用	65万㎥	170,300	9ホテル計
事務所における省エネ	7.4万 kWh	962	

	2012 年度	前年度との差
鉄道・ホテル等の費用削減合計	576,136 千円	100,920 千円

※削減予想効果算出に、以下の数値で計算しています。
鉄道用電力は1kWh＝11円、鉄道用以外の電力は1kWh＝13円、
ガス使用量は1N㎥＝65円、水道使用量は1㎥＝262円

4. 省エネ・省CO_2の取り組み

(1)鉄道事業における取組み

鉄道事業の電力消費

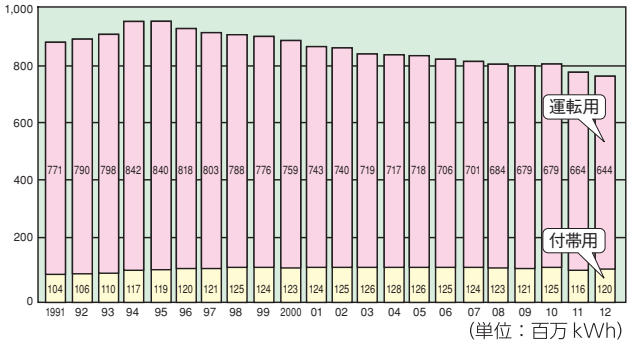
鉄道事業における電力消費は、当社のエネルギー消費量の大きな割合を占めています（2012年度全社電力使用量の83%）。鉄道用電力の削減に取り組むことが、当社全体の省エネルギーにつながります。

2012年度の鉄道用電力使用量は約764百万kWh（前年度比△2.0%）で、運転用電力は前年度比△3.1%減、付帯用電力は前年度比3.8%増でした。これは、車両走行キロが前年度比△4%減であったことと、節電の取り組み変更（待合室の冷暖房運転）、天候によるものと思われます。

運転用電力:列車を動かすために使用する電力

付帯用電力:駅施設等で使用する電力

鉄道用電力消費の推移



（単位：百万kWh）

電力消費の推移	1990年度	2012年度
動力原単位（kWh／車キロ）	2.48	2.14（△13.7%）

省エネ車両

消費電力の削減に貢献する省エネルギー車両を順次導入し、全車両の59%にあたる1,147両が省エネルギー車両です。そのうち特に省エネ効果の高いVVVF車両は一般車両と比べて消費電力を35%削減しており、896両です。また、アルミ車体、ボルスタレス台車により車両の軽量化も図っています。

地下駅の空調設備の効率化

地下駅の空調設備において、温度負荷に応じた細かい運転を行うインバータ化を図り、効率的な運転を行うことで電力消費を削減しています。

大阪難波駅、近鉄日本橋駅、大阪上本町駅、近鉄奈良駅、大阪阿部野橋駅、近鉄名古屋駅でインバータ化を実施し、年間約324万kWhの電力を節約しています。

パーク&ライド

駅周辺で駐車場および駐輪場を当社が運営するほか、時間貸し駐車場業者や、当社グループ会社に土地を賃貸し、駐車場運営が行われています。

き電上下線一括方式の採用

上り線と下り線のき電線を電気的に接続することで、き電抵抗が減少し、き電線で消費されている電力損失の低減を図ります。また、回生ブレーキにより発生した回生電流が接続箇所を流れるため、上下の列車間でお互いに効率よく利用することで電力量削減を図ります。2011年度より南大阪線で実施しており、年間179万kWhを節約し、2013年度は、奈良線、京都線、橿原線および大阪線等に拡大する予定です。

力率改善用進相コンデンサの設置

通常は電力を使用する際には、電力ロスが発生しますが、力率改善用進相コンデンサを設置することでロスを減らし、電力効率を改善しています。尼ヶ辻変電所、中川変電所等の29ヶ所の変電所と、駅の電気室に設置し、毎年252万kWhを節約しています。

回生車と回生電力吸収装置

回生車とは、回生ブレーキ装備の車両で、速度を一定に抑える時や、減速する時に、モーターを発電機として使用し、発電された電気を他の車両で利用、もしくは回生電力吸収装置で吸収し、駅構内等の照明設備等に再利用できます。新生駒変電所、白庭変電所と長谷変電所に回生電力吸収装置を設置し、年間約191万kWhの電力を回収して再利用しています。

LED照明

長寿命で省エネ効果が高いLED照明を、駅や駅売店で使用しています。観光特急「しまかぜ」では、車両内で全面的に使用しています。

サイクルトレイン

当社グループの伊賀鉄道および養老鉄道では、休日および昼間時間帯に、自転車の持込みが可能となっており、鉄道の利用促進を行っています。また、当社も貸切列車としてサイクルトレインを運行しています。



サイクルトレイン

(2)生活関連事業における取組み

屋上緑化・緑地の確保

あべのハルカス（建設中）や、近鉄百貨店、志摩観光ホテル、上本町YUFURA等において、屋上緑化や緑地の確保を進めています。



あべのハルカスタワー館 16階の屋上庭園

CASBEE大阪

「CASBEE大阪」（大阪市建築物総合環境評価制度）とは、建築物を環境性能で評価し格付けする手法です。省エネや省資源・リサイクル性能のような環境負荷削減の側面をはじめ、室内の快適性や景観への配慮等の環境品質・性能の向上の側面も含めた、建築物の環境性能を総合的に評価するシステムで、SからCまでの5段階で評価されます。

（主なCASBEE大阪達成物件）

あべのハルカス（建設中）	Sランク達成
上本町YUFURA	Aランク達成

太陽光発電

シェラトン都ホテル大阪では、国内ホテル最大級の太陽光発電システム（100kW）を設置しています。

また、都ハイブリッドホテルトーランス・カリフォルニア（米国）や、商業施設「HOOP（フープ）」、あべのハルカス（建設中）にも外壁に太陽光パネルを設置しています。また、沿線内外の4ヶ所でメガソーラー発電所の建設も進めています。



あべのハルカス



あべのハルカスタワー館
南面の太陽光パネル

CO_2削減／ライトダウンキャンペーン

環境省が地球温暖化防止のためにライトアップ施設の消灯を呼びかける「CO_2削減／ライトダウンキャンペーン」に参加しています。

エコオフィスの取り組み

事務所部門においては、昼休みの蛍光灯消灯、階段利用の促進等の目標を定め、省エネに取り組む「エコオフィス運動」を実施しています。毎週水曜日のノー残業デーや、エコスタイルでの勤務、ごみ分別・リサイクルにも取り組んでいます。

環境と調和した街づくり
～近鉄あやめ池住宅地開発

「水辺や緑を活かし環境と調和した街づくり」をコンセプトに樹木約230本の保全と約90本の移植、池沿いへの遊歩道の設置など、自然の連続性を作り出すことで、四季の自然を感じることができます。

区域全体で、下記のような省CO_2の取組みを行っています。

・水や緑、風の活用など地域特性を活かしたパッシブ設計
・省エネ・創エネに配慮した戸建住宅・集合住宅
・池に浮かべた太陽光発電システム

これらの取り組みが評価され、戸建住宅・集合住宅からなるプロジェクトとしては全国で初めて国土交通省の「住宅・建築物省CO_2推進モデル事業」に採択されました。さらに、2010年10月に（財）都市緑化基金による、「生物多様性保全につながる企業のみどり100選」に選定されました。



あやめ池住宅地　ハウスウェディング



あやめ池施設配置図（2012年6月撮影）

5. 資源・廃棄物の有効利用

ごみの分別・減量

駅のごみ箱は、「缶・ペットボトル」「新聞・雑誌」「その他」に分別し、ごみの減量とリサイクルを進めています。また、家庭ごみや危険物の不法投入等を防止するため、ごみ箱の透明化を順次進めています。

列車内から排出されるごみは、車両整備時に回収・分別しています。



分別ごみ箱

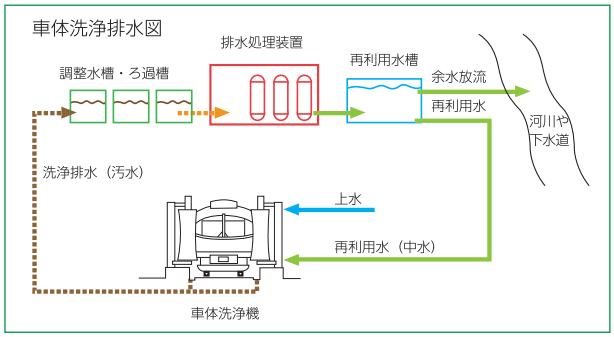
鉄道工事等で排出する廃棄物の減量・管理

工事や作業で発生する不要になった資材は、社内においてリサイクルを図り、排出する廃棄物の減量に努めています。やむを得ず処理する廃棄物については、当社は産業廃棄物の排出事業者として、収集・運搬・処分業者に産業廃棄物管理票（マニフェスト）を発行し、適時処理現場を確認するなど、それぞれ適正な処理を各業者に促しています。

車庫における水の有効利用

車庫（検車区）において、車体洗浄機により車両を洗浄しています。車体洗浄機から排出される洗浄排水は排水処理装置により浄化して河川や下水道に放流しています。またこの水の一部を車体洗浄機やトイレ付車両の汚物タンク洗浄水として再利用しています。

名古屋線富吉車庫の車体洗浄機においては、大気や水との反応により、中性に戻る、環境や人に優しい「アルカリ性電解水」を使用しています。



食品廃棄物

志摩スペイン村では、生ごみ堆肥化施設を設置し、食品廃棄物を良質堆肥としてリサイクルしています。焼却処分に要する費用を削減するとともに、堆肥をテーマパークの植栽管理に利用しています。

百貨店やホテル、レストランにおいては、生ごみ処理機を設置するなどし、生ごみの減量に努めています。

地下水の有効利用

百貨店やホテルでは、敷地内に井戸を掘り、地下水を汲み上げ、雑菌を取り除くなどの必要な処置を行うことにより、雑用水や飲料水として利用し、上水使用の低減を図っています。

古いレール・部品等の活用

古いレール・まくらぎ等を補修して再利用するほか、廃車車両の使用可能機器をできる限り再利用し、新造車両や増備車両に使用しています。

車両における配慮

新型通勤車両（シリーズ21）では、シートのクッションに再生可能なポリエステル繊維を採用しています。車体の材料には、リサイクルの容易なアルミ材を使用しています。

乗車券・定期券類のリサイクル

紙製乗車券は、建築資材の原材料やトイレットペーパーにリサイクルしています。

磁気式定期券・カード類は、燃料にリサイクルしています。

2012年度リサイクルの実績

2012年度　一般・産業・食品廃棄物の排出リサイクル

項目	一般廃棄物	産業廃棄物	食品廃棄物
排出量	9,446t	60,333t	2,281t
リサイクル量	5,621t	53,149t	968t
リサイクル率	59.5%	88.1%	42.4%

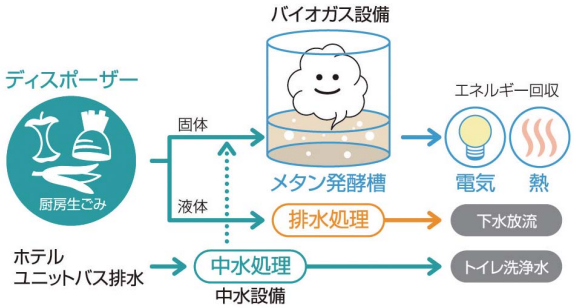
項目	廃蛍光灯	定期券	乗車券類
排出量	20t	10t	35t
リサイクル量	20t	10t	35t
リサイクル率	100%	100%	100%

2012年度　食品廃棄物の排出リサイクル

排出量	発生量	抑制量	再生利用量	減量量	実施率
2,281t	1,313t	602t	366t	1t	44.0%

バイオガス発電

あべのハルカスでは、レストランで出る生ゴミ等を使い、バイオガス発電を実施しています。粉砕した生ゴミ等をメタン発酵槽へ送り込み、バイオガスを発生させ、熱や電気を作ります。



6. 生物多様性に関する取り組み

生物多様性との関わり

事業活動の様々な段階において、生物多様性への影響があることを認識し、負の影響をできるだけ抑制するよう、生物多様性の保全につとめています。

一般的な生物多様性への影響

以下の影響をできるだけ小さくするように配慮して行動

原材料の調達による影響
CO2排出による気候変動
大気汚染
土壌汚染
水の汚染
土地の加工による影響
騒音・振動による生態系の変化
接触事故による生態系への影響

鉄道事業において、生物多様性に配慮しています

(原材料の調達)
生態系を破壊しない原材料の調達
再生可能資源(水)の使用
鉱物資源(アルミニウム・鉄)の使用

(設計・製造・生産)
効率よいエネルギーの使用
駅・線路の敷設による土地の加工
建設資材、レール等の原材料の使用
温室効果ガスを含む部品の使用
水の使用(取水・排水)
環境負荷の少ない設計

(運行・保守点検)
運行時の電力使用の効率化
騒音・振動を抑えた運行・保守
車両洗浄での水の浄化・再利用
保守点検における適正な化学物質の使用
線路周辺における適正な除草剤の使用
鹿などとの接触防止対策
車両部品に含む温室効果ガスの適正管理

(回収・リサイクル・廃棄)
廃棄物の適切な処理
車体・部品のリサイクル
乗車券・定期券のリサイクル
廃棄物・リサイクルの実態確認
お客様のゴミの分別リサイクル

英虞湾における干潟再生事業

伊勢志摩国立公園の英虞湾では、かつて湾奥部に広がっていた干潟のうち、約70%が干拓により失われています。現在、「新しい里海創生によるまちづくり」の取り組みの一環として、かつて干潟だった沿岸休耕地に海水を導入して干潟の再生をめざす試みが始まっています。

環境省は、国立公園の海域の景観、生物多様性の保全および創出を図る観点から、ホテル近鉄アクアヴィラ伊勢志摩内の沿岸休耕地において、2012年9月に水門を開放し、干潟の再生の取り組みを開始し、当社は土地所有者として協力しています。

本事業は、国立公園の適正海域管理推進事業(通称「マリンワーカー事業」)として実施するもので、環境省、当社、漁業者および関係行政機関等との協働により進めるものです。

事業期間　2012年9月～2015年3月(予定)
実施場所　ホテル近鉄アクアヴィラ伊勢志摩内の沿岸休耕地　約1ha

水門開放後は、生物や環境の定期的な調査や、地域住民やホテル近鉄アクアヴィラ伊勢志摩の宿泊客等を対象に、自然観察会や自然体験プログラムを実施しています。


ホテル近鉄アクアヴィラ伊勢志摩での干潟いきもの観察会

水生生物の保護・展示

「志摩マリンランド」は、「マンボウの泳ぐ水族館」をキャッチフレーズに、多種の海や川の生き物たちを飼育展示しています。国の天然記念物に指定されているネコギギの保全繁殖を文化庁・三重県・いなべ市・京都大学等と協働実施しており、ミヤコタナゴ、ヒナモロコ等の希少淡水魚の繁殖保全にも積極的に取り組んでいます。


天然記念物ネコギギの親子


マンボウ

干潟いきもの観察会

2013年2月、6月に、ホテル近鉄アクアヴィラ伊勢志摩の干潟において、環境省等と共同で、住民の方を対象に、干潟いきもの観察会を開催しました。水門開放前と比べて、干潟生物の種類が増えていることが確認されました。



干潟いきもの観察会

7. 環境啓発活動

社員による清掃活動

会社、労働組合、健康保険組合共催のイベントで、毎年社員、組合員らを対象とした潮干狩りやなし狩り等を行っていますが、その際に社員および家族による会場や周辺道路の清掃を行っています。

また、一部の駅・列車区や連続立体交差化工事等の大規模工事現場においては、当社社員や協力会社社員による周辺の清掃活動を行っています。



伏屋駅周辺清掃

きんてつ鉄道まつり等での紹介

五位堂検修車庫の「きんてつ鉄道まつり2012」や、塩浜検修車庫の「きんてつ鉄道まつり2013 in 塩浜」、伊賀鉄道(株)の「伊賀線まつり」において、当社の環境への取り組みを紹介するブースを設け、啓発活動を行いました。

交通環境教室（わくわく交通環境バスツアー）

2013年8月、国土交通省近畿運輸局と八尾市が共催する、小学生の親子を対象とした交通環境教室に、当社も協力しました。きんてつ環境クイズや、高安車庫での車両洗浄体験で、楽しく学んでいただきました。



きんてつ環境クイズ

なんばエコプロジェクト2013へ参加

なんば周辺の自治体、商店会、企業等が協力し、南海電鉄(株)が主体となって開催する、お客様参加型環境保全イベント「なんばエコプロジェクト2013」に参加しました。



なんばエコプロジェクト

8. 環境関連法規への対応

省エネ法

当社は特定輸送事業者および特定事業者として、エネルギー管理統括者等を選任し、エネルギー使用状況に関する定期報告書、エネルギー削減に関する中長期計画書を、毎年度国土交通省等に提出しています。

また、各自治体の地球温暖化防止条例等に基づき、大阪府、京都府、京都市、名古屋市、東京都等にCO_2排出量等の定期報告書等を毎年度提出しています。

社内の各事業場においては、管理標準を整備し、適切に設備管理・運用ができるように努めています。

PCBの適正処理

PCBとは、変圧器やコンデンサの部品等に含まれる有害な化学物質で、当社は適正に保管、管理、処理をしています。

廃棄の際はPCB特別措置法にもとづき、計画的に処理を進めています。

PRTR法への対応

「特定化学物質の環境への排出量の把握および管理の改善の促進に関する法律（PRTR法）」に基づき、鉄道車両に使用される塗料、溶剤、接着剤などが主な届出対象となっていますが、「化学物質管理の手引き」により適正に管理し、届出を行っています。

環境教育

テキストを作成し、社員に対する環境教育を実施しています。重要な法規や、当社の環境に対する取り組みを説明し、部署ごとや個人で取り組むべき事項を紹介しています。

環境社会検定試験（ECO検定）の取得奨励

自己啓発援助金を授与する通信教育講座に、環境社会検定試験（ECO検定）受験コースを設け、社員にECO検定の取得を奨励しています。

当社ではホームページの「ご意見・ご要望」、および郵便、電話等で広くお客様の声をお待ちしております。CSRに関する当社の取り組みや本レポートへのご意見・ご感想を頂ければ幸いです。お寄せいただきましたお客様の声は、今後の施策の参考にさせていただきます。

本レポートに関するご連絡先

近畿日本鉄道株式会社　安全環境推進部
〒543-8585　大阪市天王寺区上本町6-1-55
TEL：06-6775-3357
FAX：06-6775-3469
http://www.kintetsu.co.jp

特集 観光特急「しまかぜ」

しまかぜ
Premium Express SHIMAKAZE



ゆったりとくつろげるプレミアムシートをはじめ、和洋個室、カフェ車両など多彩な空間とアテンダントによるきめ細やかなサービスを備えた観光特急「しまかぜ」が2013年3月21日にデビューしました。乗ること自体が楽しみとなるような、新しい鉄道の旅をご提供いたします。



本革３列プレミアムシート



サロンシート（4〜6人用）　３室



カフェ（2階）



洋風個室（3〜4人用）　１室



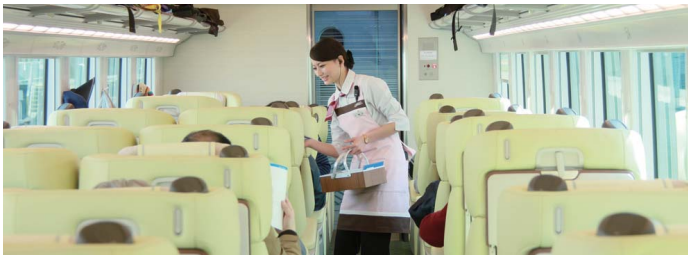
和風個室（3〜4人用）　１室



カフェ（1階）



アテンダント





スイーツ





海の幸ピラフ



近鉄

FSC
www.fsc.org
ミックス
責任ある木質資源を使用した紙
FSC® C012257

VEGETABLE OIL INK

Waterless Printing Naturally

※ユニバーサルフォントを使用しております。